

2021-2019 合格者からの メッセージ集

[2022年3月版]

※後日追加・再配布予定

はじめに

受講生の皆さんからのご要望が多いため、合格者の方々に、受験生へのメッセージ・詳細な合格体験記を寄稿していただきました。本試験の手応え、成績と実際の答案、模試の成績等もできるだけ掲載しています。

社会人合格者、社会人→専念合格の方を中心に少し遡り、2019年合格の方にもご依頼しました。基本的に手を加えず、そのまま掲載しています。

詳細な学習法・学習環境等は千差万別であり受験生全員にあてはまるものではないと考えられますが、メンタル管理の方法、時期ごとにどのような思いで取り組んでいたかなど、ぜひ学習に行き詰まった時の参考にしていただければ幸いです。

※学習専念生やその他の合格者からのメッセージ等も追加して、また6月頃再配付予定です。

[平林]

目次

2021年合格者からのメッセージ ★2021年は12月短答実施なし	p.4
■伊藤さん(仮名)ー短答・論文1回目 模試E判定から5月短答→8月合格 学生	
■渡辺さん(仮名)ー独学からTAC上級コースへ、5月短答→8月論文合格 学生	p.7
本試験答案抜粋レジュメ 会2-F、会3-A、会4-B、会5-A	
■田中さん(仮名)ー短答2回目、論文2回目合格 学生	p.9
本試験答案抜粋レジュメ 企1-A、企2-A、営2-A	
参考:前年不合格時の分析	
■鈴木さん(仮名)ー短答3回目、論文5→8合格(短答後論文対策開始) 社会人	p.15
本試験答案抜粋レジュメ 会2-A、租税1-C、租2-D、企2-D、経営1-B	
■中村さん(仮名)ー働きながら短答2回目で合格→専念、論文2回目合格	p.22
本試験答案抜粋レジュメ 企1-B(後日追加予定)	

2020年合格者からのメッセージ

★2020年は5月短答が8月、論文は11月に延期

- 山口さん(仮名)ー12月短答→11月論文合格(計算に不安あり) 学生 p.26
- 高橋さん(仮名)ー短期集中・短答2回目合格(5月)→論文2回目合格 社会人 p.29
- 佐藤さん(仮名)ー会計大学院→企業法で短答合格、論文3回目合格 社会人→休職 p.34
- 佐々木さん(仮名)ー短答2回目合格 8月→11月論文合格 社会人 p.39

2019年合格者からのメッセージ

- 加藤さん(仮名)ー受験断念・就職→5年経て上級コース→短答論文一発合格 p.44
働きながら12月短答合格→短答合格後、退職
- 木村さん(仮名)ー短答2回目合格 5月→8月論文合格 社会人(監査補助スタッフ) p.48
※以前「2019年5→8合格者からのメッセージ集」で“Aさん”として共有済み
- 斎藤さん(仮名)ー短答3回目合格、5月→8月論文合格 大学卒業1年後合格 p.53
※以前「2019年5→8合格者からのメッセージ集」で“Bさん”として共有済み

2021年合格者

■伊藤さん(仮名)

短答・論文I回目 模試E判定から合格 学生

お伝えしたいのは以下の4つです。

勉強方法について

1. 時間管理
2. 隙間時間

メンタル管理について

1. 自分にご褒美をあげること
2. 無理だと自分で決めてしまわないこと

勉強方法について

色々あるかと思いますが、おすすめが2つあります。

1. 時間管理

試験を控えている方々は既に勉強時間の管理をしているかと思いますが、休憩時間についても管理することをおすすめします。お風呂や、お昼ご飯など意外と時間が経っています。

タイマーなどかけておくと、ちゃんと1時間で切り上げられたぞ!と思うことができ、自己嫌悪に陥ることをなくせるかなと思います(時間に常に迫られている感じがしてストレスだ、などこの方法が合わない方は無理しないで下さい)。

2. 隙間時間

私がこれをし始めたのは論文式試験の1ヶ月ほど前からですが、もっと早くやれば良かったと思うものです。お風呂の時間を主に使っていたのですが、今日一日やったことを「思い出す」時間にするのです。これをしたところ記憶定着が凄まじかったなので、是非やってみて下さい。

メンタル管理について

1. 自分にご褒美をあげること

私は、周りはすごい人ばかりだから自分なんかは休憩をしたらダメだと思い、休憩を入れずに、脳がぼーっとしてきても勉強をだだだやっていた時期があります。

でもTACの先生と相談して、休憩時間・休憩日を設けることにしたところ、勉強時間中にしっかり頭を働かせることができたのでとても効果的でした。

勉強するために、しっかりご褒美をあげてください。

2. 無理だと自分で決めてしまわないこと

私は短答式試験前も成績が振るわず、全ての答練の8割はDかE判定だったと思います。さらに言う言うと実力テストもアクセスもスケジュール通りに解いたものは1つありません。いくつかの基礎答練も受けそびれました。論文式試験前に至ってはすべてE判定です。論文対策講義なるものがあったことを知ったのは本番の2週間前です。

何が言いたいかというと、これほどやばい人でも最後まで諦めずに本番まで勉強し続ければ受かったということです。

他の頭の良い受験仲間が他の予備校の公開模試を受けていたり、論文対策講義をうけていたり、そのほかにも自分だけやれていないことがあって不安になるかも知れません。

しかし、それをしなければ受からない訳ではありません。強いて言うならば、試験当日受けに行かなければ受からないです。私は試験本番でも2日目の計算ができなさすぎて帰ろうと思いました。でも、結果的に帰らなくて本当に良かったです。あなたにあった勉強を、最後まで続けて下さい。大丈夫です。

文式試験情報	試験結果(科目別素点)	会計学第一問	22
文式試験情報	試験結果(科目別素点)	〃 第二問	16
文式試験情報	試験結果(科目別素点)	〃 第三問	25.5
文式試験情報	試験結果(科目別素点)	〃 第四問	38
文式試験情報	試験結果(科目別素点)	〃 第五問	32.5
文式試験情報	試験結果(科目別素点)	監査論第六問	13
文式試験情報	試験結果(科目別素点)	〃 第七問	14
文式試験情報	試験結果(科目別素点)	企業法第八問	33.5
文式試験情報	試験結果(科目別素点)	〃 第九問	19
論文式試験情報	試験結果(科目別素点)	租税法第十問	18.5
論文式試験情報	試験結果(科目別素点)	〃 第十一問	23
論文式試験情報	試験結果(科目別素点)	経営学第十二問	27
論文式試験情報	試験結果(科目別素点)	〃 第十三問	30
論文式試験情報	試験結果(科目別素点)	経済学第十四問	
論文式試験情報	試験結果(科目別素点)	〃 第十五問	
論文式試験情報	試験結果(科目別素点)	民法第十六問	
論文式試験情報	試験結果(科目別素点)	〃 第十七問	
論文式試験情報	試験結果(科目別素点)	統計学第十八問	
論文式試験情報	試験結果(科目別素点)	〃 第十九問	
論文式試験情報	試験結果(科目別調整後得点)	会計学第一問	24.45
論文式試験情報	試験結果(科目別調整後得点)	〃 第二問	31.7
論文式試験情報	試験結果(科目別調整後得点)	〃 第三問	30.35
論文式試験情報	試験結果(科目別調整後得点)	〃 第四問	35.35
論文式試験情報	試験結果(科目別調整後得点)	〃 第五問	37.35
論文式試験情報	試験結果(科目別調整後得点)	監査論第六問	22.35
論文式試験情報	試験結果(科目別調整後得点)	〃 第七問	22.8
論文式試験情報	試験結果(科目別調整後得点)	企業法第八問	33.35
論文式試験情報	試験結果(科目別調整後得点)	〃 第九問	26.8
論文式試験情報	試験結果(科目別調整後得点)	租税法第十問	21.3
論文式試験情報	試験結果(科目別調整後得点)	〃 第十一問	30.8
論文式試験情報	試験結果(科目別調整後得点)	経営学第十二問	24.4
論文式試験情報	試験結果(科目別調整後得点)	〃 第十三問	31.75

大問ごとの素点

偏差値

48.9
63.4
50.5
50.5
53.3
44.7
45.6
66.7
53.6
57.2
51.3
48.8
63.5

その大問の
調整後得点 ÷ 配点 × 100
= 偏差値

【伊藤さん(仮名)の全国模試② 成績表と本試験成績】

全員番号

受験番号

受験地区

氏名

21年目標公開模試第2回

TAC

2021/07/21 現在

会計科目	テーマ	集 点	配 点	平均集点	得点比率	特 点	得点比率	順位/受験者数	判 定	Aラック集点率	Bラック集点率	Cラック集点率
財務会計論	第一問	31	60	31.6	51.7	29.6	49.3	363/ 684	D	- 8	- 5	- 2
	第二問	20	70	26.8	28.6	29.1	41.6	540/ 684	E	- 13	- 11	- 8
	第三問	33	70	28.0	47.1	38.2	54.6	209/ 684	B	- 3	0	+ 3
	小 計	84	200	86.3	42.0	96.9	48.5	400/ 684	E			
	第一問	16	50	13.6	32.0	27.4	54.8	173/ 687	B	- 2	0	+ 1
管理会計論	第二問	17	50	11.5	34.0	31.5	63.0	63/ 687	A	+ 2	+ 3	+ 5
	小 計	33	100	25.0	33.0	58.9	58.9	87/ 687	A			
	合計	117	300	111.6	39.0	155.8	51.9	268/ 691	C			
	第一問	20	50	20.6	40.0	24.5	49.0	337/ 650	D	- 6	- 4	- 2
	第二問	20	50	21.0	40.0	24.2	48.4	355/ 650	E	- 6	- 4	- 2
企業法	合計	40	100	41.6	40.0	48.7	48.7	362/ 650	E			
	第一問	12	50	15.1	24.0	23.0	46.0	382/ 648	E	- 9	- 7	- 4
	第二問	10	50	14.4	20.0	22.1	44.2	435/ 648	E	- 10	- 8	- 6
	合計	22	100	29.5	22.0	45.1	45.1	455/ 648	E			
	第一問	13	40	17.2	32.5	18.0	45.0	445/ 669	E	- 11	- 8	- 6
税務法	第二問	15	60	22.6	25.0	24.3	40.5	547/ 669	E	- 14	- 11	- 9
	合計	28	100	39.8	28.0	42.3	42.3	536/ 669	E			
	第一問	23	50	18.1	46.0	27.5	55.0	205/ 622	B	- 2	0	+ 3
	第二問	19	50	27.0	38.0	20.7	41.4	481/ 622	E	- 15	- 12	- 9
	合計	42	100	45.1	42.0	48.2	48.2	363/ 622	E			
総合		249	700	274.2	35.6	340.1	48.6	389/ 711	E			

受験すべき全科目受験者数

657

受験すべき科目の受験数

657

本試験

の成績

48.9

63.4

44.7

45.6

66.7

53.6

53.2

51.3

48.8

63.5

53.25

総合

渡辺さん(仮名)ー独学からTAC上級コースへ、5月短答→8月論文合格 学生

★渡辺さん(仮名)の本試験答案是、
本試験答案抜粋レジュメのうち以下を参照。
会2ーF、会3ーA、会4ーB、会5ーA

私は独学で半年ほど勉強した後、TACに入学し、論文合格まで辿り着きました。そこで、独学→TACで苦労したことに加えて、勉強中意識していたことや失敗談(学習時、本試験時)を述べていきたいと思っています。

独学→TACで苦労したこと

私は半年ほど独学で勉強していましたが、その期間は主に財務と管理の計算を勉強していました。その際には、某フリマアプリでTACのテキストと問題集を購入し学習を進めていましたが、下書きの書き方や問題に対する考え方が完全に自己流になっていました。

例えば、TAC生であれば連結の計算問題が出たらタイムテーブルを書いて問題を解くと思いますが、それまでの私は全ての仕訳を書き出して解いていました。TACに入った後、そのような違いがボロボロと出てきたため、問題に対する適切な回答方法をインプットすることに非常に苦労しました。

勉強中意識していたこと

自己学習の効率を上げることを常に意識していました。私も含めて会計士受験生は本試験に至るまで、何千時間も勉強をします。その中でも大きな割合を占めているのは、講義でも答練でもなく自習の時間です。そのため、①講義では論点の理解やインプット事項の洗い出し②答練ではアウトプットの練習やインプットの足りない箇所を洗い出して、自習中自分が何をすれば成績を上げることができるのかを考えて、③それを取り込むことで自習の効率を極限まで高めようとしていました。

学習時の失敗談

初めて講師の先生に質問したのは、TACに入って3ヶ月経ってからでした。これは今でも大失敗だと思っています。膨大な論点の数々を正しくインプットできるわけがなく、誤ったインプットをしていたことにより、自習の効率を低下させることに繋がってしまいました。些細な疑問でもめんどくさがらず、すぐに質問するべきでした。

大学との両立について

私は、コロナの影響で大学の講義がフルリモートになったことで自由な時間が大幅に増えたため、大学との両立は苦になりませんでした。また、会計士試験にかなり重きを置いていたため、大学の期末試験やレポートは必要最低限の時間だけ割いてパスしていました。

本試験時の失敗談

論文試験時に隣の電卓豪打マンに気を取られ過ぎたことが失敗だと感じています。私は、通信で学習をしていたため、通常の答練は静かな環境で受け、全国模試のみTACの校舎で受けていました。幸か不幸か、TACの校舎で受けた際には周りの方々の電卓の音が静かで、ストレスなく解けてしまいました。

論文試験だと3日間、隣の方と机を共にすることになります。ある程度の耐性をつけるために敢えて劣悪な環境で問題を解く練習をすべきでした。

メンタル面について

私が学習を進めていて、特にメンタルがしんどくなった時期は、本試験(短答、論文どちらも)の直前期です。既に知っている知識や計算方法を忘れないためだけにひたすら反復して維持することに努めていました。その時期を乗り越えたからこそ、成績には表れなくても何か昨日の自分より成長したという実感はメンタルを安定させるためにとても大切なものだと感じます。

対策というほどのものではありませんが、毎日同じ時間に起きて同じ時間から勉強を始めるというように、1日のルーティンだけは死守していました。

■論文2回目合格 田中さん(仮名) 学生

2019年12月短答×(46.6%、ボーダー57%)、2020年8月短答○(71% ボーダー64%)、
→2020年11月論文×(総合51.65)→2021年8月論文○(総合59.52)

★田中さん(仮名)の本試験答案是、
本試験答案抜粋レジュメのうち以下を参照。
企1-A、企2-A、営2-A

私が意識していたことは、以下の3点です。

1. 安定して高得点を出せる科目を作る事

短答では、大失敗した科目がありましたが、財務会計論でしっかりカバーできたので間違っていなかったかなと思います。メンタルが安定することもメリットの一つだと思います。しかし、苦手科目であっても偏差値52は常に目指しました。

2. 勉強方法を改善し続ける事

初回の短答式試験に落ちた後、Youtubeやウェブサイトを開覧し、自分に合ったものを取り入れていきました。

3. 一日の終わりにその日勉強した内容を記録し思い出す事

■講義の受け方と失敗談

公認会計士講座に申し込んで半年ほどは、講義に出席していましたが、途中からついていけなくなり、ビデオの方に切り替えました。理解の程度に合わせて授業の速さが調節できるので自分に合っていたと思います。メモはそんなに取らず、理解することに集中しました。

私の一番の失敗は、入門期にさぼりまくった事です。免許合宿に行ったため、授業初日から欠席し、その後も友達に誘われるたびに遊びに行きました。未受講の授業は膨大になり、とにかく授業を受けることが目的となってしまいました。このようにして、復習がおろそかになり、実力テストは散々な結果でした。

更に一回受けた授業の内容をほとんど復習せずに次の授業を受けていたので、どんどん内容を忘れていく上に、大して理解もしていないので、授業をもう一回見直すはめになりました。かなり時間の無駄だったなと思っています。

■大学との両立

論文に合格した年には、ほとんど単位を取り終えていたので、授業は週2日くらいでした。また、コロナ禍ということもあり、ほぼすべての授業がオンラインだったので大学に行く事もほとんどなかったです。その結果、あまり大学との両立には苦勞しませんでした。

■8月短答→11月論文から翌年の論文再スタートで苦勞した事

一番苦勞したことは、成績の維持と安定です。過年度生なので、再スタートしてから3月末の最初の論文模試までの時期では、比較的高めの成績が出ました。しかし、5月短答が終わった後に始まる答練で、だんだん偏差値が下がっていきました。直前答練では偏差値52をきることもしばしばあり、本番が近づいてきているのにこんな成績で大丈夫なのかと思う事もありました。ですが、今更細かいところに手を伸ばしたところで、本番の成績がよくなる可能性は低いし、結局合否を分ける問題は、基本的な問題であることは、短答・論文を一回ずつ落ちた経験から実感していたので、直前期ほど基本的な問題を大切にしました。

■答練について

A・B問題で点数を落としていないか、正答率50%以上の問題を落としていないか、をチェックし、間違えたところを中心にテキストに印をつけました。

計算分野に関しては、ミスノートを作成し模試や本番の直前に見直しました。

テキストのほか、答練の復習については次の通りで行っていました（答練のうち、難易度や重要性がCの所はあまりやっていませんでした）。

監査論の答練→たまに見直す程度

租税法答練→2年目は直前答練まですべて見直していました（切った論点は復習してません）

管理会計の答練→アクセスを中心に、重要性C以外を復習しました

財務会計論の答練→理論はテキストに印をつける程度。計算はアクセスを中心に、基礎答練応用答練はしっかり見直しました。

企業法の答練→すべて見直していました。

経営学の答練→理論はたまに見直していました。計算は苦手分野を見つけるためだけに使用し、回転はしませんでした。

■息抜き

日曜日は早めに切り上げて、ゲームやyoutube、麻雀などをしました。

勉強の合間には、散歩をしたり、面白い動画を見たりしていました。

論文

田中さん(仮名) 令和3年(2021年)論文本試験での素点データ

会計学

第1問26.8+第2問34.25+第3問+30.15+第4問43+第5問42.75→58.98

会計学午前(管理会計論)

第1問 素点26/50偏差値53.6×0.5→調整後得点26.8/50

第2問 素点19/50偏差値68.5×0.5→調整後得点34.25/50

会計学午後(財務会計論)

第3問 素点25/60偏差値50.25×0.6→調整後得点30.15/60

第4問 素点50/70偏差値61.42×0.7→調整後得点43/70

第5問 素点41/70偏差値61.07×0.7→調整後得点42.75/70

監査論 第1問25.8+第2問25.2→51.00

第1問 素点17.5/50偏差値51.6×0.5→調整後得点25.8/50

第2問 素点17/50偏差値50.4×0.5→調整後得点25.2/50

企業法 第1問32.85+第2問32.55→65.40

第1問 素点32.5/50偏差値65.7×0.5→調整後得点32.85/50

第2問 素点29.5/50偏差値65.1×0.5→調整後得点32.55/50

租税法 第1問21.3+第2問40.05→61.35

第1問 素点18.5/40偏差値53.25×0.4→調整後得点21.3/40

第2問 素点38/60偏差値66.75×0.4→調整後得点40.05/60

経営学 第1問27.15+第2問34.8→61.95

第1問 素点31/50偏差値54.3×0.5→調整後得点27.15/50

第2問 素点34/50偏差値69.6×0.5→調整後得点34.8/50

★田中さん(仮名)の本試験答案是、
本試験答案抜粋レジュメのうち以下を参照。
企1-A、企2-A、営2-A(別途追加予定)

田中さん(仮名)合格年度論文本試験での成績 本番の所感

○全体を通して意識した事

■問題文を穴が開くほど読み込む

■自分が覚えたテキストや知識から離れない

会計学

管理 一 26.8 /50…53.6

論理論問題集の論点が沢山出た。

非累加はきついけどそれ以外を頑張った。

二 34.25/50…68.5

あまりできた感じはしなかったが、他の人もできてないだろうと思いついていて。問題文をしっかりと読んでいたので単位のミスはなかった。

財務 三 30.15/60…50.25

四半期がかなり自信がなかった、焦った。

四 43/70…61.42

どの問題もそれなりにかけたので、大丈夫だと思った。結果もついてきた。

五 42.75/70…61.07

全体を見て、絶対解き終わらないと思い、確実にできそうなものを解いた。後半の記述は半分も埋まらなかったが、部分点はあると思う。

監査論

一 25.8 /50…51.6

全く分からずに焦ったが、とにかく問題文を読み自分が覚えたものを書いた。

二 25.2 /50…50.4

この分野は手薄であったが基準集を読んで何とか書いた。監査論は平均くらいでよいと思っていたので、予定通りの結果。

企業法

一 32.85/50…65.7

問題1も2も条文を探してくることが一番難しかった。前半の問はできたと思ったが、後半の問は条文の特定に時間がかかり、答案構成も満足にできず、結果、かなり空欄だったので自信がなかった。条文のあてはめは頑張った。

二 32.55/50…65.1

前半の問に関しては、ただ作文しただけだと思ったが、点が来ていた。後半の問は全国模試で使用した条文だったので書けたと思った。

租税法

一 21.3 /40…53.25

簡単な問題でよくできているだろうと思っていたが、全く振るわなかった。一番自信があったところだった。

二 40.05/60…66.75

解答箇所が一問一答みたいではなくなり、焦った。全体的に見慣れた論点だった印象。法人税が若干不安だったがよくできていた。

経営学

一 27.15/50…54.3

記述式の問題で納得するくらいの答えは書けなかったが、何かしらは書いた。

二 34.8 /50…69.6

全く手ごたえがなかった。合っているという自信がないまま解いていたが、結果的によくできていた。

(了)

田中さん 全国模試②の成績



合格時 本試験成績

令和03年 公認会計士試験論文式試験成績通知書

免除資格を取得した科目については、得点率の欄に「※」を表示しています。

免除資格を取得した科目がある場合は、論文式試験一部科目免除資格通知書を別にお送りしています。

科目区分	会計学	監査論	企業法	租税法	経営学	経済学	民法	統計学	総合
得点率	58.98	51.00	65.40	61.35	61.95	-	-	-	59.52
問別得点 (調整後)	一 26.8 四 43	一 25.8 二 32.85	一 21.3 二 27.15	三 - 五 -	七 -				
	二 34.25 五 42.75	二 25.2 二 32.55	二 40.05 二 34.8	四 - 六 -	八 -				
	三 30.15								
順位	339位	1,148位	66位	267位	235位	-	-	-	215位

田中さん 前年論文不合格時の成績表分析

2020年度 8月→11月論文

令和02年 公認会計士試験論文式試験成績通知書

免除資格を取得した科目については、得点率の欄に「※」を表示しています。
免除資格を取得した科目がある場合には、論文式試験一部科目免除資格通知書を別にお送りしています。

令和2年度 51.8で合格。

科目区分	会計学	監査論	企業法	租税法	経営学	経済学	民法	統計学	総合
得点率	52.81	49.15	48.95	55.75	49.30	-	-	-	51.65
問別得点 (調整後)	一 25.65 四 42.5 二 27.75 五 32.4 三 30.15	一 22.6 二 26.55	一 23.25 二 25.7	一 24.55 二 31.2	一 24.05 二 25.25	三 - 四 -	五 - 六 -	七 - 八 -	
順位	114位	436位	479位	4位	484位	-	-	-	43位

偏差値 (数字 ÷ 配点)

不合格者の
中での順位

管	会計学		監査論	
	一	25.65 / 50 ... 51.3	一	22.6 / 50 ... 45.2
管	二	27.75 / 50 ... 55.5	二	26.55 / 50 ... 53.1
	三	30.15 / 60 ... 50.25	三	25.7 / 50 ... 51.4
財	四	42.5 / 70 ... 60.7	四	23.25 / 50 ... 46.5
	五	32.4 / 70 ... 46.28	五	25.7 / 50 ... 51.4
務	六	35.4 / 70 ... 50.57	六	25.7 / 50 ... 51.4
	七	32.4 / 70 ... 46.28	七	25.7 / 50 ... 51.4

租税法

理論	一	24.55 / 40 ... 61.37
計算	二	31.2 / 60 ... 52

経営学	一	24.05 / 50 ... 48.1
	二	25.25 / 50 ... 50.5

■2021年合格 鈴木さん(仮名)

短答3回目、論文1回目5→8合格 社会人(5月以降論文対策開始)

<受験結果>

19/12短:×、20/8短:×(58%)、21/5短:○(76%)、21/8論:○(順位4ケタ)

★鈴木さん(仮名)の本試験答案是、
本試験答案抜粋レジュメのうち以下を参照。
会2-A、租税1-C、租2-D、企2-D、経営1-B

<属性・学習スタイル>

社会人(事業会社経理勤務フルタイム)、通信生

平日:朝~20時頃:仕事、22時~24時:学習

休日:1日のうち2~数時間学習

その他、通勤等のスキマ時間で学習。プライベートの時間はきっちりとする。

通勤・食事の時間に講義を倍速で受講。

反省点

■短答に特化せず、3月末まで論文用の学習をしておけばよかった。。。

やはり、短答後に1から論文対策するのはしんどかったです。とくに租税・企業法。

財務理論や監査論は、論文の勉強をすることで理解が深まり、結果的に短答にも生きそうだった。

財務・管理の計算も、短答の応用なので、論文ができれば短答もできるというイメージ。

特化するにしても自己判断せず、まずはきちんと講師に相談すべきだった。

■短答時期から、学習プランについて講師に相談すべきだった。カリキュラムに沿わず、我流でやっていたため、無駄が多かったかもしれない。

■論文の企業法について、我流で勉強していた時間が無駄だったので、もっと早く講師に聞いておくべきだった。→正直、本番当日まで何を書けば点数が来るのか、まったく感覚がつかめていませんでした。論ズレしないこと、趣旨を書くこと、無理な論理展開しないこと、主要条文書くこと、結論を書き切ること、あたりをわからないなりに意識して書いた結果、最低限の点数がもらえて命拾いしました。

(→本試験答案 企2-D参照)

メンタル管理について

■1日中勉強していると気が滅入る、というかそもそも集中できないので、オン/オフの切り替えを大事にしていました。社会人は土日はフルで勉強!という風潮もありますが、私は半日程度しかやらず、半日は趣味&平日の疲れの癒しに充てていました。

■昼食・夕食後には必ず15分の仮眠をとってから勉強していました。仮眠後に眠たいときは、10分だけゲームをやって、手と頭を無理やり動かしてから勉強の導入をしていました。導入時は好きな音楽を聞いて気分を高めつつ、計算等の文字情報が少なく、頭を使わずに手だけで解ける作業的な問題から始めるようにしていました。集中し始めたら、音楽を止めて別の科目へ。

勉強中もこまめに休憩を取り、休憩の合間に携帯アプリの漫画を1話だけ読む、みたいな感じでメリハリをつけていました。

■試験直前、とくに前日はきちんと睡眠を取る。論文は3日間あるので、初日、2日目は夜にマッサージ受けてリフレッシュしました。とくに論文は当日の試験の出来を気にしない。振り返らず、翌日の科目に集中することを意識しました。

詳細な学習状況

【2020年8月短答不合格後～2021年5月短答まで】

■学習スタイルのとおり学習時間が少ないため、短答だけで手いっぱい、論文式の学習は全くせず。。正直、はなから5→8は厳しいだろうと思っており、「まずは短答に専念!」という気持ちになっていた。

のちに論文の勉強を開始してから、「短答のためにももっと前から論文の勉強をやっておけばよかった」と後悔。

■短答終わるまでは、講師の方に一度も相談をしたことがなかった。

■短答本番2か月前まで成績が伸び悩み、6割強をフラフラ →5月短答の1か月前頃から8割近くまで急に伸びたイメージ。直前期はひたすらテキストと苦手な問題を回していた。

【短答直前期】

理論系

- ◎とにかくテキストの回転率を上げる。じっくり読み&サクサク読みを併用しながら。
- ◎答練、模試、過去問を集約。迷った・間違えた問題に付箋をつけ、完璧になるまで繰り返す。
- ◎解いた後は必ずテキストの関連ページを読み、問題のリファレンスを振る。
- ◎監査論は解いたあと、要求事項か否かをきちんと意識。
- ◎管理は原価計算規則を何度も回転して正確な記載を覚えた。
- ◎財理のテキストは、脚注を含め隅々まで読み込む。
- ◎得意な論点もきちんと忘れないように触れる。

計算系

- ◎きちんとした計算ロジック・仕訳ではなく、表・図・暗記を使う解法など、ド忘れしたら理屈から導き出しにくい論点(例:連結・企業結合、売価還元、退給、配当可能額)は、たまに簡単に手を動かしておき、忘れないようメンテ。
- ◎解かずに論点を確認するメンテナンスも毎日行う。怪しいポイントはテキストで確認。
- ◎並行してアクセス答練1・2回/日を眺め(解かない)、回答プロセスが思い浮んだらOK。×ならテキストへ。
- ◎計算が終わったら、関連する理論部分を理論テキストで確認。

【5月短答後～2021年8月論文】

全体

- 短答後すぐ、過去問を眺め、出題形式の概要把握。財務・管理計算は新規知識の積増し不要と判断。
- 短答後、初めて講師の方に学習プランの相談をした。もっと早く活用して相談に乗ってもらえばよかったと後悔。
- 時間をはかって完全な状態で解いたのは模試②のみとなった。財務・管理・租税は別途時間配分把握のため、答練を使って2,3回実施。
- 答練は主に回転用として使用。試験に受かることが目的であり、答練は手段でしかないので、時間との兼ね合いを見て割り切った。とにかく時間がなくて、効率よく何度もテキスト等の教材を回し、点数を落とさない・苦手を作らないよう意識。TACの論文全国模試①は未受験。論文全国模試②は受験したが、監査以外全部E判定。監査以外偏差値47点。

(★メッセージ最後に実際の模試の成績添付あり)

租税について

■ 短答後すぐ、ひたすら講義受講を進め消化。短期集中講義で受講。

■ 租税計算はmin30分/日だけでも毎日必ず実施。理論は直前1か月詰込み(毎日15分など)。

■ 毎日違う分野(例:今日・法人、明日・法人と所得...)に触れ、薄く広く積み重ねた。財理・管理と違って、端数の扱い等、きちんと解き切らないと得点できない細かいpointが多いため、計算は丁寧に時間をかけて学習。

■ 論点・公式を数ページの紙にまとめて防水加工し、毎日お風呂の中で租税に触れるようにした。

■ 理論は、要約条文に出題箇所を一元化し毎日確認。計算がわかれば書ける⇔計算できないと書けないものが多い。頻出かつ計算でカバーできない論点をメインに確認。基準集の使い方も確認。

■ 消費は結果的に3点setのみ。理論の頻出論点以外は完全に捨て。結果3点setのうち2点得点できた。
(★実際の本試験答案→租税1-C、2-D)

経営について

■ 短答後すぐ、ひたすら受講を進め消化。

■ 経営計算はmin15分/日だけでも毎日必ず実施。レベル1のみ。

■ 章末問題を、例えば全部で12章あれば、今日:1&7章、明日:2&8章...と、毎日薄く広く積み重ね。

1週間で論点1周くらいのイメージ。可能であれば、公式の導出方法まで理解しておくのと忘れにくい。

■ 公式を数ページの紙にまとめて防水加工し、毎日お風呂の中で経営も触れるようにした。

■ 理論は直前1か月で詰込み。章末のポイント部分を集約し、毎日2,3章/日ずつ回転。答練や直前講義の内容も、集約したもの一元化。理論のテキストは講義受けた時以外ほぼ触れず。語呂合わせも多用。こちらは1週間で2周くらいのイメージ。

(★実際の本試験答案→経営1-B)

財務計算

■ 短答前と同様、連結・企業結合は、たまに手を動かして忘れないようにした。

直前期には、主に短答論点といわれる四半期・セグメント等もきちんと確認を実施（本試験で出題）。

財務理論

■ アウトプット確認は声に出して実施。インプット時も声に出しながら実施すると定着が良く感じた。

■ 答練は論文式確認問題とともに、論点のストック作りに使用。2,3章/日でじっくり回転。財務計算で見た論点は、ついでに理論も確認して脳内のリンクを張った。

■ 並行して、テキストをじっくり読まずにパラパラ読むことを短期間で繰り返した。じっくり&薄く広くを毎日。

■ 重要定義など暗記対象は、1枚に集約し、毎日寝る前に暗記。

それ以外はキーワードを押さえるのみ。キーワードが正しく入っていれば、構成は現場で組み立て可。論点・章ごとに覚えていくのではなく、例えば基準の対比、原則・容認といった出題の構造の切り口から論点をまとめ、横断的に把握するのも効果的だった。本番で基準集を使えるように事前に構成を確認。

管理会計

■ 一番時間をかけなかった科目。短答レベルが解ければ十分だと信じた。その代わりに理論に注力。アクセス答練は時間配分・傾向把握のために使用。繰返しの復習はせず。

(★実際の本試験答案→会2-A)

管理理論

■ 理論問題集をトイレに置き、トイレに入るたびに1章ずつ確認。答練や模試の問題も理論問題集に集約。一言一句ではなくキーワードを押さえることを意識。

・論文直前講義のテキスト外論点も、念のためおさえておいた。

監査論

■ 管理計算の次に時間をかけなかった科目。管理理論とともに、監査理論問題集をトイレに設置し、毎日確認。

■ 暗記が必要な重要語句は1枚に集約し、寝る前に暗記。模試は監査だけは点数がとれた。本番も最低限は守れた。

短答までにテキストは回転済。

企業法

- 短答とのギャップを一番感じた科目。解答の作法が特殊なため、早めに講師に相談がオススメ。
- 基準集の引き方も慣れが必要。条文番号はほぼ暗記しなかった。目次から該当箇所を引くスタイル。
→ 目次から引けないものだけ(120条利益供与etc)だけ暗記。
- 2冊の問題集と答練等を全部集約。ランクA,Bメインに覚える。解答の構成、要素のみ。
→ 基準集の使用方法、学習法ともに、槇先生に大変お世話になりました。
- 答練は2回ほどきっちり解き、採点の感じを確認。後の答練は、問題集とともに回転対象として利用。
実際に解答を書き切ったのは模試、答練2回のみ。基本的には解答の構成、要素、条文が参照できるかを確認してOKとした。

+テキストで理解。

(★本試験答案抜粋レジュメ・・・企2-D)

5月短答以降、科目ごとに割いた時間の目安

正式に計っていないので感覚ですが、下のようなイメージです。

租税>経営>財務理論>企業法>財務計算>管理理論>監査論>管理計算

管理理論・監査論はほぼ毎日理論問題集に触れましたが、1日当たりの時間が短いので総量は少ないイメージです。経営は講義の消化と計算の定着までは時間がかかりますが、計算が定着するとほぼ理論のみであるため、そこまで負荷は高くないと感じます。

最後に

直前の模試が堂々のE判定でも、1,2か月あれば、あきらめなければ絶対追いつけます!

5→8なんだから模試は成績悪くて当然だ、本番までに追いつけばいい、という開き直りが重要だと思いました。カリキュラムに置いていかれても、「合格が目標で、カリキュラムは手段でしかない」という開き直りも重要だと思います。

毎日ほんの少しでもいいので、今日できるようになったことを自信として蓄積して、頑張ってください!!!

★鈴木さん(仮名)の本試験答案是、
本試験答案抜粋レジュメのうち以下を参照。
会2-A、租税1-C、租2-D、企2-D、経営1-B

備考欄

TAC

2021/07/21 現在

会員番号		受験番号	受験点	受験満点	2021/07/21 現在									
氏名		21年目標 公開模試 第2回												
		テーマ	満点	配点	平均満点	満点比率	得点	得点比率	順位 / 受験者数	判定	Aランク満点	Bランク満点	Cランク満点	順位
全科学	財務会計	第一問 個別損益	30	60	31.6	50.0	29.0	48.3	264 / 684	E	- 9	- 6	- 3	
		第二問 自株・棚渡・全株等	23	70	26.8	32.9	31.7	45.3	457 / 684	E	- 10	- 8	- 5	
		第三問 連結・企業結合・収益	20	70	28.0	28.6	29.8	41.8	520 / 684	E	- 16	- 13	- 10	
		小計	73	200	86.3	36.5	90.5	45.3	509 / 684	E				
		第二問 個別損益・標準原価	11	50	13.6	22.0	22.3	44.6	450 / 687	E	- 7	- 5	- 4	
	管理会計	第二問 CVP・内部留保等	10	50	11.5	20.0	23.2	46.4	388 / 687	E	- 5	- 4	- 2	
		小計	21	100	25.0	21.0	45.5	45.5	476 / 687	E				
		合計	94	300	111.6	31.3	136.0	45.3	519 / 691	E				
	監査論	第一問 報告書記載区分関連	22	50	20.6	44.0	26.0	52.0	265 / 650	C	- 4	- 2	- 0	
		第二問 異動金・細部資産	25	50	21.0	50.0	27.9	55.8	167 / 650	B	- 1	- 1	- 3	
		合計	47	100	41.6	47.0	53.9	53.9	215 / 690	C				
企業法	第一問 請求取引	7	50	15.1	14.0	19.6	39.2	545 / 648	E	- 14	- 12	- 9		
		第二問 株式交付	14	50	14.4	28.0	24.7	49.4	328 / 648	D	- 6	- 4	- 2	
		合計	21	100	29.5	21.0	44.3	44.3	475 / 648	E				
	第二問 理：法人・消費・所得	15	40	17.2	37.5	18.9	47.3	380 / 669	(E)	- 9	- 6	- 4		
		第二問 計：法人・所得・消費	12	60	22.6	20.0	22.1	36.8	595 / 669	(E)	- 17	- 14	- 7	
		合計	27	100	39.8	27.0	41.0	41.0	551 / 669	E				
	第三問 経営管理	18	50	18.1	36.0	24.0	49.8	330 / 622	D	- 7	- 5	- 2		
		第二問 財務管理	23	50	27.0	46.0	22.8	45.6	400 / 622	(E)	- 11	- 8	- 5	
		合計	41	100	45.1	41.0	47.7	47.7	374 / 622	E				
	合計		230	700	274.2	32.9	322.9	46.1	469 / 711	E				

受験すべき全科目受験者数 657

7/22
(木)
模試後の
相談メモ

完全5ヶ月のため、
全国②時点で租税Eは
折込み済み

大きな凹み・上振れを除いた大間の平均偏差値

令和03年 公認会計士試験論文式試験成績通知書

免除資格を取得した科目については、得点率の欄に「-」を表示しています。
免除資格を取得した科目がある場合には、論文式試験の科目免除資格通知書を別にお送りしています。

科目区分	会计学	監査論	企業法	租税法	経営学	経済学	民法	統計学	総合
得点率	54.88	50.75	47.25	50.10	59.00	-	-	-	53.10
間別得点 (調整後)	23.8 30.5 39.5	25.15 34.55 25.6	21.5 25.75 25.75	20.9 29.2 29.2	33.35 33.35 25.65	- - -	五 六 -	七 八 -	-
順位	794位	1,166位	1,295位	1,321位	435位	-	-	-	1,058位

管理会計と
 思った
 2-1 計測、評価
 2-1 は図表、グラフ
 シェード
 ガーベツク
 才3
 減収 6/8ヶ所
 Last 10月
 会計論見
 理金論点見た。
 四半期はともOK.

■中村さん(仮名)

働きながら短答2回目合格→専念、論文2回目合格

★中村さん(仮名)の本試験答案是、
本試験答案抜粋レジュメのうち以下を参照。
企I-B(後日追加予定)

私は、働きながら勉強していた「働きながら期」と、専念で勉強していた「専念期」があります。

合格までの流れ

2018年2月 クレアルで勉強開始。(2020年目標)

2020年5月 自分には通信は合っていないと思いTACへ入塾。(2020年目標上級コース)

2020年12月短答 53%(ボーダー57%) 不合格×

2020年 8月短答 64%(ボーダーちょうど) 合格◎

2020年10月 退職

2020年11月論文 総合44.87 不合格×

2021年 8月論文 総合55.95 合格◎ 租税62.

管理会計の答練解説で、多田野さんが言っていたことが非常に印象に残っています。「なんとなく合格したらいいな、と思っている段階では絶対に合格できない。絶対に合格してやと思って、初めてスタートラインに立てる。この試験は難関だから。」というようなことです。

私の受験生活を振り返っても、本当にそう思います。

短答1回目と論文1回目は「なんとなく合格できたらいいな」という感じで、当然不合格。短答2回目はボーダーでの最下位合格で、正直まぐれでした。しかし、絶対に諦めないという気持ちはとても強かったと思います。論文2回目は絶対に合格できると思って、勉強しました。

たまに、仕事を辞める勇気すごいねって言われたりしましたが、短答合格したタイミングで2回目の論文までに絶対合格したいし、絶対合格できるって思ったから辞めました。仕事を続けたままズルズル受からない方がリスクが高いとも思いました。

また、めちゃくちゃ重要なことですが、1回目の論文を全力で受けたからこそ、論文はめちゃくちゃ難しいけど2回目はいけるだろ、ちゃんと準備すれば手に届く範囲だな、と思えました。メンタル的にもキツイ部分はありますが、短答後に仕事辞めるという選択はありだと思います。

以下、特に意識していたこと5つです。

①答練にこだわること

三田先生も言ってましたが、「受験生の最大の気分転換方法は、答練でいい点をとること。」は本当にそうだと思います。「専念期」では必ず教室で受講していました。5歳以上も歳下の大学生と答練の点数で一喜一憂していました。非常に楽しかったです。「働きながら期」もできるだけ教室受講していました。当時の教室で、スーツを着て、答練受けていたのは私だけだったかもしれません。笑

②自分は頑張っているという自覚や充実感をもつこと。

日々、必死に勉強してきたという自覚や、「今日も頑張った」という充実感があることが重要だと思います。私は1日の始めには簡単な問題を解くor簡単な理論の暗記する、を取り組んでいました。進んでいる感覚があって、充実感がありました。

③努力の方向が間違っていないか、常に確認すること。

「働きながら期」では、一度も学習相談に行ったことがなく、がむしゃらに勉強してただけでした。したがって、かなり効率は悪かったと思います。社会人受験生ほど効率が大切だと思うので、講師に相談すべきかと思います。

④自分ととことん向き合う

ここで言っているのは、自分の体や頭、生活リズム、集中力などです。「専念期」の最も強大な敵は「怠惰」だと思っていたので、特に意識しました。

例えば、私の場合だと、「空腹の状態だと、勉強が手につかない。」「昼ごはんを食べて、2時間後に眠気がくる。」「2時間室内にいたら、集中が切れる。」

何の科学的根拠はありませんが、自分の体がそんな感じてました。他にもいろいろありますが、そういった自分のバイオリズムを知り、対策して、常に集中して勉強ができるようにタイムスケジュールを組みました。

⑤隙間時間を使う。

特に「働きながら期」で、特に意識してました。昼休憩中は、もちろん勉強。勤務中1時間に1回は休憩して、他フロアに行って10分勉強（喫煙者が喫煙ルームに行く感覚です）。

会社内でテキストを持ち歩くのは憚られたので、ミニノートを作って勉強してました。（講義受けた当日にテキストを縮小コピーし、翌日以降、休憩中に勉強するみたいな感じ。）

★勉強法について

テキストを中心に勉強していました。以下、特によかった勉強法です。

①直前期に読み込むための教材の作りこみ(短答・論文上級期)

スケジュールを逆算して、何日前に何を確認するか、を考えて、教材の加工をしていきました。私の場合は、直前期にはテキストを読み返したかったので、テキストに答練の出題部分や引っ掛け項目、ケアレスミスの情報を一元化していきました。

例えば、租税応用答練1回目、アクセス2回目でミスしたところは、それぞれミスの内容の後ろに(応I)(ア②)とメモしていました。答練自体は全身全霊で受けていたので、その状態でも間違えるということは、本番でもやりうるミスであると思うので、テキストを読むときは毎回目につくようにしてました。例題に似てるアクセスの問題を間違えた場合には、例題の近くにメモしてました。

→ 12ページ
画像

②論点想起勉強法(目次勉強法ともいわれている?)

例えば、租税法(租税法が一番、しっくりきました。)

講義で理解→ 問題集を解く→ アクセスを解く→ アクセスが十分に解けるレベルになるまで回転→【ここからが想起法】テキストの目次(分野)を見て、「何がポイントか。何が引っ掛け項目か。」を想起し、テキストで答え合わせ。

論文2回目の直前期にはあまりアクセスは解かず、論点想起に努めました。

テキスト目次などで論点想起する勉強法は、全科目に適用可能だと思います。

③論文直前2週間ほどで、アクセス答練や基礎答練を解いて捨てていく。

中本先生が言っていた方法で、直前期にアクセスや基礎答練を解いて、冊子を捨てていってしまうというもの。本試験2週間前くらいから何をするか迷ってしまい、集中力が切れてしまったので、財務と管理、租税の計算科目だけ取り組んでみました(理論科目については、答練後すぐにテキストに情報を一元化していたので、答練は見直す必要なし)。

もう見返せないという緊張感があり、どんどんファイルが薄くなるから達成感もあります。

しかし、実際には不安から全て捨てることができるわけではないし、1週間前からはテキスト中心に見直したかったので、全て解き直すことは時間的に出来ませんでした。

そこは完璧主義になる必要はないと思うので、集中力をあげる方法として試してやってみる、という感じでいいと思います。

★最後に

2年目の論文試験の企業法。30分経っても論点がわからない。何を書けばいいかわからない。どうしよう。私はかなり焦っていました。これが分からなければ、足切りかもしれない。

そのときに震度3の揺れ。こんなときに地震か。一度、問題文から目を離して、周りを見渡す。試験監督から、「津波の影響など分かりましたら、アナウンスします。とりあえずそのまま続けてください」と。再度、問題文をに目を戻して読む。「あ、これ事業譲渡のやつだ!467条5項にあったやつだ!」と気づきました。

何が言いたいかというと、試験中には絶対にあきらめてはならないし、何が起こるかわからないし、頑張っている人はきっと報われるので、頑張ってください。絶対合格します!

テキストへの
書き込み例

XII. 償却可能限度額

★ 期首価額が小さい場合は注意!

1. 平成19年3月31日以前に取得した減価償却資産

(1) 償却可能限度額

① 意義

償却可能限度額は、取得価額のうち償却することができる範囲の金額であり、理論的には「取得価額－残存価額」と一致すべきである。しかし、有形減価償却資産の処分価額は残存価額を下回ることが多く、残存価額に達した後もなお事業の用に供している場合には、取得価額の95%相当額まで償却することが認められている。

② 各減価償却資産の償却可能限度額

- i 有形減価償却資産 …… 取得価額 × 95%
- ii 無形減価償却資産 …… 取得価額

③ 有形減価償却資産の償却限度額

- i 通常の場合の償却限度額
- ii 期首未償却残額－取得価額 × 5%
- iii i と ii のいずれか少ない方

← 残り5%に至るまでの金額。
(年度を切り替えてはならない)

(2) 前事業年度までにおける償却費の累積額が、取得価額の95%相当額まで達している減価償却資産

① 堅ろう建物等の特例

一定の減価償却資産（堅ろう建物等）で、前事業年度までに取得価額の95%まで償却済のものについては、税務署長の認定により、下記の算式による金額を償却限度額とすることができる。

なお、堅ろう建物等とは、鉄骨鉄筋コンクリート造、れんが造、石造等の建物、構築物又は装置をいう。

$$\text{償却限度額} = (\text{取得価額} \times 5\% - 1\text{円}) \times \frac{\text{分母のうち当期の月数}}{\text{認定残存使用可能期間の月数}}$$

② ①以外の資産

堅ろう建物等以外の資産については、その到達した事業年度の翌事業年度（平成19年4月1日以後に開始する事業年度に限られる）以後の各事業年度において、次の算式により計算した金額を償却限度額として償却を行い、残存価額1円まで償却できる。

$$\text{償却限度額} = (\text{取得価額} \times 5\% - 1\text{円}) \times \frac{\text{当期の月数}}{60}$$

1円残存忘れに!
5年である点に注意!
(ア②)

2. 平成19年4月1日以後に取得した減価償却資産 (ア①)

坑道及び無形減価償却資産については取得価額の全額を、それ以外の資産については「残存価額1円」まで償却できる。

2020合格者からのメッセージ

山口さん(仮名)一短答・論文I回目合格(計算に不安あり) 学生

時期別の時間配分・1日のスケジュール・苦労したこと

1. 入門基礎マスター期

入門基礎期には講義の理解をすることに努めました。大学の講義が多くあったため、朝大学に行って隙間時間などを使って復習をしていました。大学の講義が終わった後はTACに移動し、講義が始まるまで復習をし、確認テスト等で満点を取れるように意識して学習していました。基本的にTACの定めたスケジュールを守ればいいので、予習等は一切していませんでした。

2. 12月短答前

各科目の短答の答練やアクセスをひたすら回転していました。計算は今まで解いた時の記録に基づいて間違っているところなどを優先的に解きました。理論は答練で出ている論点について適宜テキストにシールを貼って見える化をして網羅的に把握することに努めました。

3. 12月短答後

短答が難化したため、合格しているか不安でしたが論文の学習をすぐに開始しました。試験終了後、早い段階で租税経営の講義が始まるのでインプットに注力しました。

個人的に、計算科目については短答と論文の大きな違いはないと思います。そのため、短答の時の計算力をキープしていれば問題ないと思います。この時期は論文答練で出た問題を解くくらいで対応していました。

理論については短答と論文では大きく異なります。短答の瑣末な論点は覚える必要がない代わりに、基本的な考え方を理解して、アウトプットできるようにならないといけません。そのために、テキスト上で論理構成を区切るなどして、段階的に覚えることに努めました。最重要の定義については一言一句の暗記をしましたが、それ以外についてはポイントを抑えておけば問題ないと思います。

4. 11月論文直前、本試験当日

直前期は新しいことに手を広げず、今まで使ってきた教材の回転をすることに努めました。やること自体は短答の時と変わらず、答練を受け、論点をテキストに集約しました。直前2週間はテキストを一巡して論点を抑えました。

可能な限り
リアルタイムで受けていた。

5. 試験当日 ★2020年は、土日の2日間で本試験実施。企業法から開始。

企業法

落ち着いていこうと思っていましたが、やはり想定外のことが起きました。第2問を書き切った後で、論ズレしていることに気がついて全部修正しました。焦りながら終了間際まで書き続けたため、第1問で重要な条文を書き漏らしてしまいました、なんとかなりました。

租税法

テキスト・答練の論点を一つ一つ丁寧に抑えておけば稼げる科目になると思います。

監査論

第1問で思いっきり論ズレをしました。第2問の事例問題が特殊な形でしたが、TACの直前講義でやった内容に類似していたため、スムーズに解けました。日々の演習で、手続きの意味を考えておくことと事例問題に対処することができるようになると思います。

管理会計論

もともと管理が大の苦手だったため、特に語ることはありません。問題はほぼ解けませんでした！

財務会計論

管理終了時点でだいぶ気落ちしていましたが、励ましのLINEをいただいてやる気になりました。苦手な計算でもそれほどつまずくことなく、理論は対策していた内容が当たったので落ち着いて解くことができました。

経営学

TACの直前講義で配布された教材から多く内容が出ていました。経営学は広く浅く抑えておくことで守ることができる科目なので、教材を網羅的に抑えておくことをお勧めします。

最後に

財務計算のテキストに書いてある「財務会計論を制する者が会計士試験を制する」は本当です。基礎期でいかに計算を固められるか合否に直結すると思います。

自分の場合はそこで計算を固められなかったのが、最後まで計算に不安を抱いていました。そのため理論でゴリ押す戦略を取らざるを得なくなっていました。

結局のところ、会計士試験は相対試験です。周りが取れているところを落とさず、周りより少しだけ取れば合格できます。そのためにも、基本に忠実に、学習を頑張ってください。応援しています！

会員番号 XXXXXXXXXX 受験番号 XXXXXX 受験地区 XXXXXX
氏名 XXXXXXXXXX
20年目標 公開模試 第3回



2022/10/19 現在

			テーマ	満 点	配 点	平均満点	満点比率	得 点	得点比率	順位/受験者数	判 定	Aランク満点数	Bランク満点数	Cランク満点数
会計学	財務会計論	第一問	SS等・純資産	23	60	25.7	38.3	28.2	47.0	423/ 707	E	- 10	- 7	- 4
		第二問	損益・負債・棚資産等	26	70	28.3	37.1	33.4	47.7	395/ 707	E	- 10	- 7	- 4
		第三問	連結・事業分離等	23	70	25.0	32.9	33.3	47.6	403/ 707	E	- 8	- 6	- 3
		小 計		72	200	79.0	36.0	94.9	47.5	440/ 707	E			
	管理会計論	第一問	工程別等級別・標準	12	50	16.7	24.0	20.9	41.8	528/ 708	E	- 9	- 8	- 5
		第二問	利益計画・意思決定	14	50	15.8	28.0	23.6	47.2	402/ 708	E	- 7	- 5	- 3
		小 計		26	100	32.5	26.0	44.5	44.5	521/ 708	E			
		合 計		98	300	111.6	32.7	139.4	46.5	473/ 711	E			
	監査論	第一問	新型コロナウイルス留意事項	13	50	10.4	26.0	27.6	55.2	167/ 686	B	- 1	0	+ 2
		第二問	企業及び企業環境	21	50	18.2	42.0	27.3	54.6	203/ 686	B	- 2	0	+ 2
合 計			34	100	28.7	34.0	54.9	54.9	179/ 686	B				
企業法	第一問	監査等委員会設置会社	25	50	16.8	50.0	32.4	64.8	37/ 672	A	+ 4	+ 6	+ 7	
	第二問	利益供与禁止規制	12	50	14.0	24.0	23.4	46.8	395/ 672	E	- 7	- 5	- 3	
	合 計		37	100	30.9	37.0	55.8	55.8	152/ 672	B				
租税法	第一問	理：法人・消費・所得	18	40	15.7	45.0	21.2	53.0	243/ 684	C	- 4	- 1	+ 1	
	第二問	計：法人・所得・消費	24	60	23.7	40.0	30.1	50.2	344/ 684	D	- 7	- 4	- 1	
	合 計		42	100	39.4	42.0	51.3	51.3	313/ 684	C				
経営学	第一問	経営管理	19	50	18.7	38.0	25.1	50.2	305/ 628	D	- 6	- 4	- 1	
	第二問	財務管理	41	50	29.0	82.0	31.4	62.8	63/ 628	A	+ 5	+ 8	+ 11	
	合 計		60	100	47.7	60.0	56.5	56.5	153/ 628	B				
総 合			271	700	251.2	38.7	357.9	51.1	293/ 730	C				

受験すべき全科目受験者数 691

計算を1hやたら

好きな理論科目を“ごほうび”として2・3h.としてモチベーション維持
していた。(理論もやり過ぎてしまわないうちに)

令和02年 公認会計士試験論文式試験成績通知書

免除資格を取得した科目については、得点率の欄に「※」を表示しています。
免除資格を取得した科目がある場合には、論文式試験一部科目免除資格通知書を別にお送りしています。

科目区分	会計学	監査論	企業法	租税法	経営学	経済学	民法	統計学	総合
得点率	48.75	55.50	57.85	54.55	55.25	-	-	-	52.77
問別得点 (調整後)	一 14.3 四 44.2	一 22.1	一 25.35	一 21.95	一 30.05	三 -	五 -	七 -	
	二 22.15 五 38.95	二 33.4	二 32.5	二 32.6	二 25.2	四 -	六 -	八 -	
	三 26.65								
順位	1,314位	748位	487位	993位	767位	-	-	-	1,134位

■2020年 論文2回目合格 社会人 高橋さん(仮名)

1.基本情報

2018年8月より、社会人(会計と関連のない職種)として働きながら短期集中コースで学習を開始。

2019年5月に短答式試験に合格、8月論文式で企業法科目合格。

2020年11月の論文式試験にて全科目合格。

2.振り返って

私は、社会人かつ30代後半で勉強を始め、結果として約2年間で合格できました。比較的短期間で合格できたのは運もありますが、環境や年齢を気にせず、受かると強く思っていたこと、そして限られた時間をほぼ勉強につぎ込めたことが合格できた要因だと思います。

1回目の12月短答は得点率40%代でしたし、2回目の短答までも1度も模試でAB判定を取ったことはありませんが、勉強をし続けているなら、一番良い結果が出るのは模試よりも後にある本番だと思っていました。論文式試験も同じで、コロナで延期した時も勉強し続ければ本番のほうが合格しやすいはずと考えていました。いま考えると、非常に短絡的な考えです(笑)。しかし、メンタル維持の役に立ち、メンタルが維持できれば学習時間も集中力も高まります。

答練や模試で良い結果が出たら素直に喜び、本番ではより良い結果を目指せばいいですし、答練などが良い結果でなくても本番で良ければいいんです。都合の良い考えは自分のメンタルに役立ちます(笑)。

3.意識していたポイント3つ

①学習時間の目標と記録付けて習慣化

私の場合、社会人であるため、学習時間の目標と実際の時間は非常に大事でした。自分の確保すべき時間と進捗が分かり、何をしなければいけないかが把握しやすく、また日々の記録がモチベーションにつながるからです。なお、私の場合は学習時間をスケジュール帳と、アプリ「Studyplus」で記録していました。

とはいえ、細かくは設定せず、ざっくり年間2000Hとし、週約40Hを目標としました。実際は週平均35H程度(平日3H、土日10Hほど)でしたが、大事なことは目標時間から大きくブレずに勉強し続けることだと思います(最低でも週30H、祝日などある週は50Hなど)。

一定以上の勉強時間を確保すれば習慣となり、習慣は学習「量」を築く一番の土台となるからです。

②答練や模試よりも本試験

短答合格まで答練や模試はほぼC判定以下でした。短答試験2・3ヶ月前のアクセス答練でも10点など低い点数を連発していました(笑)。また、社会人で時間が限られ、仕事の関係で答練や模試は一度もライブでは受けることはできませんでした。しかし、私は本試験が良ければすべて良しと思っていたので、アクセス答練などはすべて本番までの練習と考えていました。日々の勉強も模試などもすべて本試験のためにやっているの、そこに集中すれば悪い結果でも良いマインドを維持できます。

本試験が良ければすべて良しという考えは、考えてみれば当たり前のことですが、日々の勉強や模試の結果に一喜一憂してしまい、常に意識できている人は少ないように思えます。一貫して、自分が学習している目的(答練で良い点数を取るのではなく、本試験に合格すること)を忘れずに、良い精神状態を維持することは大事だと思います。

③適度かつ適切な相談で量から質へ

①で学習が習慣化されたら、一定の学習「量」は確保できると思いますが、量だけでは合格できません。そのため、定期的に学習の「質」の見直しが必要です。「質」の良い学習は、答練や模試といった相対評価を分析をすること、そして客観的な意見を講師の方などに相談することで改善されます。

わたしは短答合格まではやるべきことがある程度分かっていた(大量の講義と答練)ので相談したことがなかったですが、短答合格後は論文試験に向けて何を優先的にやるべきかわからず、すぐに数名の講師の方に相談しました。論文までの勉強方法を教示していただき、迷わずに学習ができました。

ただし注意しなければいけないのは、「適度な頻度」で、「適切なタイミング」で相談することだと思います。例えば、学習方法を相談してやるべきことが分かったらその方法を1ヶ月試して、その結果を踏まえて相談するなど、相談の目的を忘れずにしたほうが良いかと思います。

また、相談したことを実践しないのに相談することも避けるべきで、出来るだけ行動に移し、一定期間後の結果を自分なりに分析・評価して、必要であれば再度相談する、というのが良いサイクルだと思います。

4. Tips

以下、自分なりのちょっとしたTipsを共有します。

①音声データを歩きながら聞く

2回目以降の講義は、講義の音声データをスマホやポータブルプレイヤーなどに入れ、歩きながら聞き流すことはおすすめです(倍速モードなどあれば、再生速度を上げて)。

これは、学習が浅い部分、用語を理解していない、理論分野などで効果的です。しっかり聞かなくても、何度か聞いていければ聞き慣れてきます。これで書けるようになるわけではありませんが、論点の流れが頭に入りやすくなり、論点学習の下地ができます。

注意点としては、あくまで2回目以降で、1回目の受講はしっかり聞いて理解することです。また、勉強机に向かっているときは普通の学習をしたほうが良く、あくまでも机に向かえない歩き時間などに聞き流すことです。あと、車等には注意してください(笑)

②短答答練・模試への正答率の記入

短答答練は各問の正答率と肢別の選択率がWeb School【成績表】に載っていますが、これを各問題と肢別に書き込みをしていました。優先順位を明確にするためです。

復習で、全体の正答率が高い問題(例えば70%以上)は最優先で解けるようにし、肢別でも徹底的に解けるようにしました。また、誤っている問題文であれば、どこを正すべきかも考えたり、書き込んだりしました。これをすることで、本番までの1ヶ月で飛躍的に得点が伸びました。

♪
正文化.

③答練等のテキストへの反映

何でもテキストに書き込めば良いというわけではないですが、優先順位が見える化するために、答練で出てきた論点はテキストに丸シールを貼る、分かりやすい解説をコピーして貼るなどしていました。

例えば、答練で2回出た論点はテキストに丸シールを2つ貼る、論点でも解説で重要性が低いと言っていた場合は暗めの色のシールを貼るなどして、自然と優先順位が付けやすいようにしていました。

5.失敗談

■復習ノート、直前ノート

豆な性格でない、時間が無いといった理由で作成を挫折しました。性格によるかもしれませんが、わたしはテキスト等へ書き込んで、直前で見る部分は付箋でわかるようにしてました。

■筆記用具

学習中にコロコロと使う筆記用具を変えて、テキストなどがごちゃごちゃした色になりました。友人や講師の筆記用具などでピンときたものを使い続けると見やすいです。

■試験への持ち込み教材

不安で多くの教材を持ち込みますが、やっぱり見ないものは見ません。とはいえ、忘れた教材もあり、家族に写真をとって送ってもらいスマホで見ました(笑)。不安であれば持っていくのもいいですが、事前に決めておくといいです。

■試験会場のルート

論文試験は幕張メッセが会場でしたが、海浜幕張駅ではなく幕張駅で降りました(全く違う路線です)。前日乗り込みで助かりました。当たり前ですが、必ず事前にチェックをしましょう。

テキスト写真

3. 会計方針の変更に関する事項

(1) 原則的な取扱い

会計方針の変更に関する原則的な取扱いは、次のとおりである。

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更		左記以外の正当な理由による会計方針の変更
会計基準等に特定の経過的な取扱い ^(※11) が定められている場合	会計基準等に特定の経過的な取扱いが定められていない場合	新たな会計方針を過去の期間のすべてに遡及適用する。
その経過的な取扱いに従う。	新たな会計方針を過去の期間のすべてに遡及適用する。	

そして、新たな会計方針を遡及適用する場合には、次の処理を行う。^(※12)

- 表示期間^(※13)より前の期間に関する遡及適用による累積の影響額は、表示する財務諸表のうち、最も古い期間の期首の資産、負債及び純資産の額に反映する。 **当期と前期**
- 表示する過去の各期間の財務諸表には、当該各期間の影響額を反映する。

論

財務諸表全般 (補正③ P1~2)

なお、会計方針の変更を行った場合に過去の財務諸表に対して新しい会計方針を遡及適用する原則として財務諸表本体のすべての項目(会計処理の変更に伴う注記の変更も含む。)に関する情報が比較情報として提供されることにより、財務諸表全般についての比較可能性(財務諸表の比較可能性及び企業間の比較可能性)が高まるものと考えられる。また、当期の財務諸表との可能性を確保するために、過去の財務諸表を変更後の会計方針に基づき比較情報として提供することにより、情報の有用性(財務諸表の意思決定有用性)が高まることが期待される。

P190 → 比較可能性
P191 → 意思決定有用性

P221 セット

高橋さん(仮名)の本試験成績・第四問答案・テキスト写真

1年目

令和01年 公認会計士試験論文式試験成績通知書																		
免除資格を取得した科目については、得点率の欄に「※」を表示しています。																		
免除資格を取得した科目がある場合には、論文式試験一部科目免除資格通知書を別にお送りしています。																		
科目区分	会計学		監査論	企業法	租税法	経営学	経済学	民法	統計学	総合								
得点率	52.90		49.15	56.35※	42.15	-	-	-	50.35	50.95								
問別得点 (調整後)	一	30.1	四	35.1	一	22.25	一	26.95	一	17.15	一	-	三	-	五	-	七	23
	二	23.25	五	35.65	二	26.9	二	29.4	二	25	二	-	四	-	六	-	八	27.35
	三	34.6																
順位	110位		567位	599位	1,173位	-	-	-	11位	250位								

2年目

令和02年 公認会計士試験論文式試験成績通知書																		
免除資格を取得した科目については、得点率の欄に「※」を表示しています。																		
免除資格を取得した科目がある場合には、論文式試験一部科目免除資格通知書を別にお送りしています。																		
科目区分	会計学		監査論	企業法	租税法	経営学	経済学	民法	統計学	総合								
得点率	53.35		59.00	-	54.15	56.75	-	-	-	54.99								
問別得点 (調整後)	一	23.35	四	46.9	一	27.25	一	-	二	22.2	二	29.2	三	-	五	-	七	-
	二	27.35	五	35.55	二	31.75	二	-	二	31.95	二	27.55	四	-	六	-	八	-
	三	26.9																
順位	956位		387位	-	1,017位	620位	-	-	-	724位								

問題 1

問 1	収益の金額: 6,000 円	理由: A社は、B社からの商品の譲渡を行っており、法的に所有権とA社は保有しているため、商品に因する将来責任などの商品に因するリスクはB社へ移転している。また、個々の商品の品質検査と販売価格の決定権はB社にある。このことから、商品に対する支配はB社にあると考えられる。したがって、A社は代理人としてA社場において、収益として計上するものは、商品を引き渡す時点で、B社に帰属するものと見做す必要があるためである。
-----	----------------	---

問題 2

問 2	受取対価の額に引換りにある、類似した商品から交換し得る額を期待値法で算定しており、商品Aは最大50%の価格の低下が必要となると見込んでいる。通常販売価格の50%である75,000円は、見込額として、引換後の受取対価の額は、最終顧客に引き渡す90日以内において、収益の引換額が確定しない可能性がある(90日以内)限り計上できるため、75,000円となる。
-----	--

問題 2

問 1	資産の利用
問 2	(1) 減価償却の自己金融機能とは、資産の減価償却部分に費用として計上されるが、非資金収支項目であるため、減価償却の額を自己金融として計上され、非資金収支項目であるため、減価償却の額を自己金融として計上され、非資金収支項目であるため、減価償却の額を自己金融として計上される。
	(2) 取替資産に引換る資産は、過去に取得した資産に引換るため、取替時点で取替費用を自己金融として計上する。過去に取得した資産に引換るため、取替時点で取替費用を自己金融として計上する。過去に取得した資産に引換るため、取替時点で取替費用を自己金融として計上する。

問題 3

問 3	償却資産の減価償却は、その経済的便益の消費態様が個別具体的に把握できないが、減価償却資産は、その経済的便益の消費態様が個別具体的に把握できないことが理由である。
-----	--

問題 3

問 1	借方	金額	貸方	金額
X1年 3月30日	△△△有価証券	1,000,000	現金	1,000,000
X1年 3月31日	△△△有価証券	10,000	△△△有価証券 評価差額金	10,000

問題 2

問 2	通常の商品を購入した場合、材料の引当に商品を受け取り、12ヶ月後に売却し、現金で売却し、金融資産である有価証券は、売却を待機した時点から、有価証券の時価の売却額を算出する必要がある。有価証券の取得に当たっては、原則として約定日基準による金銭処理が求められている。
-----	---

問題 3

問 3	
-----	--

問題 4

問 1	① ウ ② ア ③ ウ ④ ア ⑤ ウ ⑥ ア ⑦ ウ
問 2	採用されている方法 テンポラリ法 その理由 在外支店に本国の従業員を派遣するため、本国の財務諸表の一部を提出しているため、本国の同様の換算基準の適用が適切であるため。
問 3	採用されている方法 決算日レート法 その理由 在外支店に、独立した事業体として提出されているため、独立した財務諸表を提出していることが適切であり、外貨時の調整と同様の換算後の数値を、本国の会計基準に換算されるためであるため。

2020年合格佐藤さん(仮名)

論文3回目合格 社会人・会計大学院→休職

1. 合格までの大まかな道のり

- ①2015年に短答受験→歯が立たず、アカスクに入り、短答科目免除での合格を目指す。
- ②2018年にアカスク修了により科目免除で短答合格→論文は、歯が立たず(以下に詳細)。
- ③2019年→明らかに勉強時間が足りず、論文は、歯が立たず(以下に詳細)。
- ④2020年→休職(11か月)をいただき、勉強時間を確保し、論文合格(以下に詳細)。

なお、上記の間、休職期間を除き、民間企業に勤めていました。

2. 苦労したことと、その対処法

①財務会計、管理会計の計算問題対策

アカスク免除で短答を通過していたこともあり、財務会計、管理会計の計算問題において他の受験生より実力がかなり劣っていました(合格年度の前年の試験結果参照)。

これについては、正直、克服したというよりは、致命的なダメージを負わない程度に改善したというのが実情です(本番でも偏差値46~50前後、模試や答練でも偏差値48くらいが平均値だったと思います)。しかし、それでも直近模試は3回とも総合で合格圏内だったので、論文試験においては、計算が苦手でも充分コンスタントに合格点が狙えると思います(できれば偏差値50くらいほしいと思って頑張っていました...) 6 p.37

当たり前ですが、論文式試験は論述問題の方が、問題数が多く配点も高いので論述問題ができるかどうかの方が、偏差値に差がつきやすいです。言い方を変えると計算問題の失点は、論述問題である程度カバーできます。計算問題は、出来がはっきりするのでできなかった時の印象が強く、TACには計算キレキレの優秀な方がけっこういるので、気づきにくいかもしれませんが、多くの受験生は、難易度の高い計算問題を落としているか、そもそも解いていません(この傾向は、模試を何度かやってみて結果を分析するとよくわかります)。

また計算問題は、正解か不正解がはっきりしていて、かつ1問目をミスすると芋づる式に間違う問題もあるなどリスクが高いと感じる問題も多いので、個人的には、論述問題でコンスタントに点数を稼げるように意識した方が、偏差値が安定すると思います。

ただし、明らかに簡単な計算問題は、さすがに論文式受験者の多くがとってくるので落とすと致命傷になる可能性が高く、計算問題対策をないがしろにしていいいわけではないと思います。

計算に苦手意識のある方でも、簡単な計算問題を確実にとって点数を稼いでいけば、多少のミスがあっても致命的なダメージを負わない程度には改善すると思います。

また、財務会計、管理会計の計算問題について、どうやってもコンスタントに偏差値52以上をとれるイメージがなかったので、どの科目でアドバンテージを取ればよいかをずっと考えていました。これは、科目との相性もあるので一概に言えませんが、多くの方にとってアドバンテージを取りに行くべきと考える科目が2科目あります。

■財務会計の理論

財務会計の理論はどの科目よりも配点が高く、得意にするとかなり偏差値が安定します。また典型論点も毎年何かしら出ますし、**会計理論は同じような考え方をいろいろな論点で使うので、個人的には部分点も意外と狙いやすい科目かな**と思います。

■租税法の計算、理論

本試験を3回経験した分析結果として租税法は、模試や答練以上に偏差値が伸びやすい科目だと思います。本試験は、模試だと54~56くらいかな?という出来でしたが61を超えていました。おそらく論文式からスタートの科目ということで、準備不足の受験生が一定程度いるからかなと思います。

消費税の計算など解き方に工夫が必要な科目だと思いますが、訓練次第で計算が苦手な私でも模試で偏差値56以上は、コンスタントにとれるくらいに成長したのでお勧めです。

ちなみに私自身は監査論が最も得意でしたがこれは、監査の実務経験があったことに起因します。監査の実務経験があると監査論はかなり解きやすくなりますが、そういう人はあまりいないと思うので上記の2科目がおすすめです。

②勉強時間の確保

基本的に勤めながらの勉強生活だったため、勉強時間の確保に一番苦労しました。最終的に周囲からの協力もあり、休職することで勉強時間を確保することができ、合格することができました。様々な理由から受験勉強に専念できない方もいらっしゃると思いますが、少なくとも試験前の6か月間ぐらいは勉強に専念できる環境を整えることをお勧めします。論文式試験まで到達されている方であれば、ある程度のリスクを負ってでも得られるリターンの方が多いと思います!

社会人の方であれば、まず就業規則を確認しましょう。意外と辞めなくても長期間休職できるようなことがあるかもしれません。

3. 意識していたこと

①得意でも偏差値58以上をあてにしないこと、苦手でも偏差値46は、死守すること

問題の難易度によっては、高偏差値をとることがかなり難しくなることが模試や本試験の結果を分析してわかったため、得意科目でもあえて偏差値58を上限と考えて、戦略を立てていました。それと同時に苦手でも46は死守するという意識で答練や模試、本試験を解いていました。

結果的に偏差値58以上とれた科目もありましたが、このように考えることで、コンスタントに合格点が狙えるようになったと感じています。

②問題の解き方や解くべき問題の選定を、答練だけでなく日頃の学習から意識すること

個人的に論文式試験は、知識量や理解度だけではなく、問題の解き方や解くべき問題の選定をいった技術が合否に大きく影響すると考えています。こういった技術を高めるための訓練として答練や模試を受けるという視点は、大切だと思います。

問題の解き方や解くべき問題は、講師の方々が解説してくれると思うので注意深く聞くことをお勧めします。例えば、講師の方が「守る問題」と言った表現を使った時に、自分だったら実際にどのように解くべきなのか具体的にイメージができるようにしておくことが重要だと思います。よくわからなければ、イメージできるまで質問する価値があると思います。

また自分の戦略に合わせて日頃の学習から解くべき問題の選定を意識することをお勧めします。例えば、計算問題が苦手な私の場合、本番で連結総合問題の利益剰余金や資本剰余金を狙いに行くことはほぼないので、アクセス答練などでは、こういった難易度の高い問題を解かず、難易度Aランクの問題を中心に解くようにしていました。

4. 論文試験での成績(3年分)

①平成30年

明らかに勉強時間が足らず、企業法の科目合格を狙うも撃沈。

平成30年 公認会計士試験論文式試験成績通知書
平成30年公認会計士試験論文式試験における成績を次のとおり通知します。

科目区分	会計学	監査論	企業法	租税法	経営学	経済学	民法	統計学	総合
得点率	欠席	51.15	44.90	45.55	欠席	-	-	-	20.22
問別得点 (調整後)	一	17.4	23.6	18.95	-	三	五	七	
	二	33.75	21.3	26.6	-	四	六	八	
	三	-	-	-	-	-	-	-	
	四	-	-	-	-	-	-	-	
	五	-	-	-	-	-	-	-	
順位	欠席	271位	922位	838位	欠席	-	-	-	1,868位

(得点率の表示)
・免除資格を取得した科目については、「※」を表示しています。
免除資格を取得した科目がある場合には、論文式試験一部科目免除資格通知書を別にお送りしています。
公認会計士・監査審査会

②令和元年

明らかに勉強時間が足らず、前年に続き企業法の科目合格狙いでギリギリ合格。

令和01年 公認会計士試験論文式試験成績通知書
免除資格を取得した科目については、得点率の欄に「※」を表示しています。
免除資格を取得した科目がある場合には、論文式試験一部科目免除資格通知書を別にお送りしています。

科目区分	会計学	監査論	企業法	租税法	経営学	経済学	民法	統計学	総合
得点率	40.45	44.95	56.65※	45.35	42.05	-	-	-	44.33
問別得点 (調整後)	一 21.13	四 28.95	二 20.30	一 19.75	三 19.65	三 -	五 -	七 -	
	二 13.85	五 28.7	三 24.95	二 26.55	四 25.6	四 -	六 -	八 -	
	三 28.85	-	-	-	-	-	-	-	
	四 -	-	-	-	-	-	-	-	
	五 -	-	-	-	-	-	-	-	
順位	1,534位	1,041位	557位	925位	1,046位	-	-	-	1,301位

③令和2年(合格年度)

令和02年 公認会計士試験論文式試験成績通知書
免除資格を取得した科目については、得点率の欄に「※」を表示しています。
免除資格を取得した科目がある場合には、論文式試験一部科目免除資格通知書を別にお送りしています。

科目区分	会計学	監査論	企業法	租税法	経営学	経済学	民法	統計学	総合
得点率	50.18	67.85	-	61.45	58.30	-	-	-	56.35
問別得点 (調整後)	一 24.5	四 41.15	一 38.05	一 26.95	三 31.9	三 -	五 -	七 -	
	二 22.15	五 35.55	二 29.8	二 34.5	四 26.4	四 -	六 -	八 -	
	三 27.2	-	-	-	-	-	-	-	
	四 -	-	-	-	-	-	-	-	
	五 -	-	-	-	-	-	-	-	
順位	1,260位	34位	-	278位	442位	-	-	-	520位

管理会計(会計学の一、二)

第1問…比較的とりやすく、苦手意識のある私でもある程度解けました。手応えとしては、得点比率で25(得点率で50)くらいかなといったところでした。第2問は、計算問題が難しく、解ける問題がないとすら思いました。また簡単な論述問題で問題文の読み間違いをして失点したことにより大きく偏差値を下げたのかなと思っています。手応えとしては下手すれば22.5(得点率で45)切るな

と思っていましたが案の定切ってました、、、解ける問題が少ない時の凡ミスは、本当に注意です。大幅に偏差値が下がりますので反面教師にしてください。

財務会計(会計学の三～五)

第3問…簡単な計算問題を凡ミスで落としたことが影響して大きく得点を下げたのかなと思っています。手応えとしてはさすがに27(得点率で45)は、切らないだろうと思っていましたが、ギリギリでした。

第4問…比較的得意な論述問題中心で模試などと大差ないできだったので、得点比率で39(得点率で56)くらいかなといったところでしたが、結果はもう少しよかったです。

第5問…連結や組織再編の総合問題が出たら簡単どころだけ埋めて、論述問題勝負と決めていたので、下書きすらまともに書いてなかったと思います。具体的には計算は、資本金や合算すればいいだけの資産勘定を中心に埋めて、論述問題は丁寧に読み込んで部分点を取りに行くことを意識していました。手応えは、得点比率で33(得点率で48)くらいかなと思っていましたが、結果はもう少しよかったです。

試験後に会計学全体として得点率で48は下回らないだろうと予想しましたが、結果はもう少しよかったです。これは、財務会計の理論で点数が底上げあれたのかなという感じがします。

租税法…法人税の計算問題を一部読み飛ばすミスをしたので、予想としては得点率で54～56くらいかなと思っていましたが、結果は、それよりも大幅に良かったです。繰り返しになりますが、租税法は、点数が比較的是ねやすい科目だという感覚があります。

監査論、経営学…会心の出来でした。

2020年合格 佐々木さん(仮名)

短答I回目×→8月短答・11月論文合格 社会人(一般事業会社勤務)

私が、「社会人受験/5→8合格者(コロナ禍による延期のため、正確には8→11)」を達成できた要因は色々あると思います。受験者の方に少しでも役に立つ情報をお伝えしたいと思いますが、お伝えする情報は"私"のみに有効だったのかもしれませんが。そのため、まずは、「私のバックグラウンド」をお伝えします。その上で、「私が考える12月短答で失敗した理由」、「私が考える5→8合格を達成できた理由」をお伝えします。正直、受験生の皆様全員に役に立つ情報ではないと思います。あくまでも一人の合格体験談としてご覧いただき、ご自身に合うと思った箇所を取り入れてご自身なりの受験生活を過ごしていただければと思います。頑張ってください!

1. バックグラウンド

経歴

2015年3月:東京大学卒業(専攻は法学)

2015年4月:一般事業会社入社

2017年11月:簿記2級合格

2018年11月:簿記1級合格。公認会計士試験の勉強を開始

2019年12月:短答不合格

2020年8月:短答合格

2020年11月:論文試験合格

勉強手段

簿記2級は、市販のテキストを使用

簿記1級は、大原のテキストを使用&大原でテスト対策講座を受講

公認会計士試験は、TACの通信講座を受講

試験結果

2019年12月短答:財92、管56、監70、企45 ⇒不合格

2020年8月短答:財156、管72、監70、企80 ⇒合格

2020年11月論文(得点率):会計62.3、監52.4、企55.7、租60.5、経61.65

総合59.59⇒合格

令和02年 公認会計士試験論文式試験成績通知書

免除資格を取得した科目については、得点率の欄に「※」を表示しています。

免除資格を取得した科目がある場合には、論文式試験一部科目免除資格通知書を別にお送りしています。

※科目区分は、科目コードの1桁目により、論文式試験科目と実務資格通知書をお送りしています。																		
科目区分	会計学		監査論	企業法	租税法	経営学	経済学	民法	統計学	総合								
得点率	62.30		52.40	55.70	60.50	61.65	-	-	-	59.59								
問別得点 (調整後)	一	25.65	四	40.75	一	20.3	一	25	一	25.4	一	28.25	三	-	五	-	七	-
	二	33.8	五	46.9	二	32.1	二	30.7	二	35.1	二	33.4	四	-	六	-	八	-
	三	39.8																
順位	93位		1,001位	727位	352位	175位	-	-	-	186位								

バックグラウンド

■大学受験では、センター試験(今の共通テスト)・二次試験含めて、国語、数ⅠAⅡB、英語、日本史、世界史、倫理、生物の8科目を受験したため、複数科目受験の経験がありました。また、高校三年生の時には毎日10時間以上勉強していたため、勉強に対するアレルギーが無かったです。

■また、大学(法学部)の定期テストはポケット六法を片手に解いていく論述問題であったため、論文試験に対するアレルギーは少なかったです。一方で、大学時代は条文を覚える必要は無かったため、企業法の短答式試験のような暗記科目は苦手でした。また大学時代は毎日10時間以上図書館に引きこもる生活をしていました。

■一般事業会社勤務後、営業部門に配属となり、子会社管理業務を行いました。子会社のPL,BS,CFと睨めっこする日々が続き、会計が楽しい、もっと勉強してみたいと思えるきっかけがありました(そのため簿記を勉強し始めました)。さらに投資意思決定にも携わる機会があり、IRR、NPVと言う概念を知り、管理会計・ファイナンスが楽しい、もっと勉強してみたいと思えるきっかけがありました(そのため簿記Ⅰ級合格後は会計士試験を目指そうと思いました)。

■会計士試験勉強の開始後も、営業部門にて会計に携わる業務に恵まれたため、「実務⇄勉強」双方向で点と点が線になるアハ体験(死語ですかね。。)を何度も経験できておりました。

2. 私が考える、12月短答で失敗した理由2つ

①自信過剰

上記の様に、大学受験での成功体験から、高校生時代と同様にガムシャラに勉強すれば何とかなるだろう、と思っていました。ただ、高校生時代とは違って平日働いていた私は一日10時間も勉強出来る時間はありません。その現実を直視せず、社会人受験生ならではの効率的・効果的な勉強方法を模索しなかった事が敗因と見ております。

②勉強時間不足

単純に時間が足りませんでした。毎週25時間程度(平日1時間、休日10時間)しか取る事は出来ませんでしたので、講義・答練の消化で精一杯でした。

3. 私が考える、5→8合格を達成できた理由3つ

①講師への定期的な相談

12月の短答試験後、TAC渋谷校で開催されたホームルームに参加し、ホームルーム後、講師に相談しました。これまでは、ホームルームの時間自体が勉強時間を減らしてしまい無駄だと思っていたため特に参加していなかったのですが、短期合格を達成するためには変なプライドを捨てて相談する事が大事だと思ったためです。それ以降、定期的に講師に相談して、自身の環境に合わせた効果的・効率的な対策と一緒に考えて頂き、実行に移しました。今振り返ると、高校時代もメンターと各科目の重要度を相談した上でガムシャラに勉強していただけでしたので、やはり客観的なアドバイスを頂くのは大事だと思います。

②周りの支え

●家族の支え

順風満帆な受験生活を送っていたかのように思われるかもしれませんが、会計士試験の勉強を開始した頃は成績も伸びず、退職して受験専念を検討したり、メンタルがやられる時もありました。その時には家族に支えてもらい、また、姉の友人の社会人受験合格者を紹介してもらってその方に相談したこともありました。仕事をしながら合格した人もいるという事を身近に知ることが出来、自分も頑張ろうという気になった事は受験勉強をする上で大きな原動力になったと思います。

●友人の支え

職場の同僚には会計士試験の勉強をしている事を伝えておりませんでした(おそらく、社会人受験生の方にも私と同じような方はいらっしゃるかと思います)。一方で、大学からの友人には伝えておりましたので、少し話を聞いてもらいたい時に食事に行きました。大学の友人は同じく受験勉強を経験しており、自分の悩みに共感してくれるため話をするだけで気が楽になりました。

③息抜き(メンタルケア)

社会人受験生は通信講座の人も多いと思います。孤独な闘いとなるので、息抜きは大変重要だと思います。私は以下のような息抜きをしていました。

【コロナ前】

●ディズニー

ディズニーの年パスを購入し、勉強に疲れた時に夢の国へ行きました。一日中いることは無く、2-3時間いるイメージです。スモークーターキーレグを食べながらエレクトリカルパレードを鑑賞したりしていたのですが、冷静に振り返ると結構すごいことやってた気がします。笑

【コロナ禍(2020年3月~11月)】

●ディズニープラス(動画配信サービス)

コロナ禍では在宅勤務が主となり、昼休みは自宅でディズニープラス作品を見てリフレッシュしておりました。先生からは、時間がない社会人は昼休みに勉強すべし、とアドバイス頂いた記憶もあるのですが、ディズニーの誘惑には勝てなかったです。笑

●勉強

良いタイミングでゾーンに入った、と言いますか、自身の学力が上がっていると言う実感を持てて勉強が楽しい時期に突入しました。そのため、「勉強が仕事の息抜き」、とっておりました(これは社会人の特権と思います!)

4. その他

最後に、上記ではお伝え出来なかったことを3つ記します。

①講義や答練の受け方

時間が足りなかったので講義・答練含めて予習は行わず、答練は毎回ぶっつけ本番でした。答練は出題箇所があらかじめ知らされているため、予習してから受ける方が効果的である事は理解しておりましたが、その余裕はありませんでした。

一方で答練後の復習には時間を費やしました。具体的には、「解説をよく読み理解する事」、「間違った箇所の原因分析をし、それをテキストにメモする事」、「時間を空けて解説を読み直す事」です。「解き直し」まで行くとより良かったとは思いますが、答練の回数も多く時間も足りなかったもので、行いませんでした。

②受験仲間

通学か通信かは人それぞれと思いますが、一緒に頑張れる仲間がいる事はとても大事な事だと思います。受験仲間がいる方はその縁を大事にして頂き、私のように受験仲間がいない方は身近に気軽に相談できる方を見つける事を是非お勧めします。

③取捨選択(自己責任)

本メッセージは、私の失敗・経験談を語っているだけで、それが受験生の皆様に当てはまるわけではないと思います。使えそうと思ったら是非試して頂きたいと思いますが、自分の中で腹落ちさせてから実行してください。

例えば、私は先生から頂いたアドバイスは基本的に実行しておりましたが、「仕事中に空き時間を見つけて理論対策をする事」は私の場合は行いませんでした。「仕事は集中して最大のパフォーマンスを出すべし!」と思っていたためです(仮に落ちても自分の実力が足りなかったただ、と思うようにしました)。

5. 最後に

公認会計士試験に合格すると自信に繋がり、今後のキャリア形成にとっても役に立つと思います。勿論、辛いこともあると思いますが、歯を食いしばって乗り切った後に見えてくる世界は比べ物にならないと思いますので、最後の最後まで頑張ってください!

2019年合格

■加藤さん(仮名) 受験断念・就職→5年経て上級コース→短答論文一発合格
働きながら12月短答合格→短答合格後、退職

私がこのメッセージを通じてお伝えしたいことは以下の3点です。

1. 試験当日がすべて
2. すべてを頼る
3. トラブルはつきもの

まず、身の上話をしますと、私は学生時代、会計士受験に失敗し(短答1回も受からずでした)断念しています。断念してから5年間抱えていた、言いようのない悔しさを解消すべく再度受験を決意しました。

断念時:日商簿記1級合格程度の実力

再受講時:仕事で簿記・税務使用、前回受験時の知識は少し記憶あり

学力的には上記のような状態でした。そんな私が上級コースを1年受講して、12月短答までは働きながら、8月論文は専念で、結果として突破できた(総合56.72)中で得た、教訓や知見が、先ほどの3点です。

1. 試験当日がすべて

これは身体的、精神的安定性の話です。受験には、試験当日の体調やメンタルが何よりも肝心で、保てなければそもそも受験すら危ぶまれます。そのため、以下のようなことを常にマインドセットする積み重ねが必要です。

- 試験当日にすべてのピークを持っていく(今できなくてもよい)
- 普段どおりを心がける(本番でいつもと違うことをするとエライ目にあいます)
- 質問コーナーで疑問や不安に思っていることは早く解消する
- 完璧は求めず、全論点で7割はできる自信をつける(知らないを極力作らない)
- 周りは気にしない(色々な雑音があなたの気分を下げようとします。私の場合、短答試験会場で手袋を落としてしまい、「落ちましたよ」と言われました笑)

2. すべてを頼る

① 受講相談・質問

すべての講義で必ず何か質問するつもりでいたので、断念した時より格段に集中できたと思います。毎日足繁く質問コーナーに通い、科目の内容に限らず色々質問していました。勉強の初期段階でこの先生だ!といえる人を探して、メンターにしてしまうのも一手です。

② タブレット・スマートフォン

講義録、日々の勉強時間・内容の振り返り、暗記カードに活用。ノートアプリが優秀なため、本当はテキストをPDF化したかった…(TACでは実現不可)。忘却曲線に沿って復習できるように学習管理アプリ、カレンダーも使用し、計画的に勉強していました。

- 暗記カードの移動時間での使用(カード自体は集中できない時に作成)
- 経営学マインドマップに手書きしたデータを気分転換したい時に利用
- ペース配分のため学習時間の記録にアプリ利用

③ 文房具

青色フリクションペンをテキストへの書き込みから、試験中の下書きまで使ったり、テキストの気になったところに付箋を大量に貼り付け解消したらはがしたりしていました。

④ ゴロ暗記

企業法が超絶苦手でしたが、語呂合わせて条文を覚えるようにすると格段に良くなった気がします。また、経営の理論暗記はバッチリでした。単純にゴロを作る過程が好きで気晴らしの位置づけとして利用。

3.トラブルはつきもの

色々なトラブルは起きるもので、1.で挙げた「周りは気にしない」につながりますが、トラブルに対処するには、以下の例など、あらゆる事態を予め想定しておくべきです。

① 環境

- 隣の人の騒音
- 暑い、寒いEtc (短答試験会場の配席が悪く極寒でした。)

② 試験問題

以下の表は、ザックリ科目ごとの得意不得意の自己評価と本試験結果です。一目瞭然ですが、得意科目と思っていたものが本試験でダメダメでした。答練でコケたことのない監査・租税が大コケしたのです。試験でのトラブルは起き得る話で、リスクヘッジ、つまり苦手科目を作らないということはかなり重要だと思います。

科目	論文期 時間配分	得意科目の 自己評価 (4月模試時点)	本試験結果
財務(理論)	25%	△	◎
財務(計算)	5%	○	◎
管理	5%	○	○
監査	15%	◎	×
企業	15%	×	○
租税	20%	◎	×
経営	15%	◎	◎

トラブルの話から脱線しますが、勉強計画も重要です。

私は、計算科目が得意という自負があったので(論点の復習の期間をあけても覚えていることが多かった)、理論科目への重点リソース割でした。一度、ご自身の点の取り方の傾向と、合格のため何が知識として能力として足りていないのか洗い出し、相談することが肝心かと思います。

4. 最後に

再受験を志した時は、5年もブランク空けたくせに、本気で1年での合格を目指していました。自分のゴールを明確に意識したからこと受かることができたのだと思うので、ぜひ、「いつ受かるか」を意識してください。

私は今、監査法人で勤務しています。専念の時に働きたい!と渴望していたあの頃を振り返ると、本当に頑張っただけだったという気持ちです。

TACで学んだことは監査やアドバイザリーで活きますし、決して無駄になりません。少し疲れた時は、監査法人のパンフレットを手にとって、ご自身が何のために勉強しているんだっけと振り返ってみてください。

皆さんが良い結果を得られるよう、応援しています。

木村さん（仮名）：社会人受験生（監査補助スタッフ） 5月→8月合格

2018年12月×(8%足りず)→2019年5月○(ボーダーの3%上),2019年8月○(総合53.2)

私は、当初目標としていた12月短答に落ちました。ですが、私の場合、12月で落ちていなければ、2019年度の論文には受かっていなかったかもしれません。5→8パターンだと、戦闘モードのまま駆け抜けられるため、私には向いていたのだと思います。

私が5→8を目指す上で大事にしていたことは、以下の3つです。

- ①独りよがりにならない。こまめに相談・質問したり、情報収集する。
- ②点数、判定、順位は気にしない。自己分析、自己把握をしっかりとる。
- ③メンタルがやられないようにする。

①相談について

働きながらWebで勉強していたこともあり、12月に落ちるまで、全く質問や成績相談をしたことがありませんでした。結果として、間違った勉強（テキストを全く見ず、他の予備校の一問一答問題集をずっと回していました）をしてしまっており、それが大きな敗因となりました。ボーダーまで8%足りない結果となりました。

前年度の5→8月で合格した監査補助スタッフかつTAC生の先輩に色々と同って、12月短答後は、質問コーナー利用、久野先生の成績相談、毎月1回（勝手にメンターと位置付けた）平林先生との相談時間確保をするように変え、客観的な意見をもらうようにしました。

②自己分析などについて

受験全期間を通じて、成績は芳しくなかったです。5月短答も論文も、本試験が一番出来ていました。先生方から言われていると思いますが、**答練や模試の点数は気にせず、中身の分析**をし、自分の弱点やミスの傾向、論文は書き方のクセ等の把握をすることが重要と思います。

相談する時は、ほぼ0点でも論文答練の答案や成績は持っていくようにしていました。理論で空欄を作ってしまった場合、そこに弱点のヒントがある場合もあります。

③メンタル管理について

12月短答後、自分なりに精一杯頑張ったのに結果が伴わず、今までの努力は無駄だったのか、と涙を流したことを今でも覚えています。

5月短答直前はもっと辛く、せっかく自習室に行ってもお腹が痛くなって帰ったりしていました。

アホみたいな話ですが、4月、頭が痛くてTACから帰る途中、癒しを求めてペットショップに寄り、なんとハムスターを買い、そのまま連れて帰ってしまいました。。

4月はインスタを4時間以上見続けたり、気分を上げるためにネイルサロンに行ったりした日もありました(笑)。

5月組は時間の余裕も精神的な余裕もないですが、心が折れてしまってからでは遅いので、どうしても勉強が手につかない時は別のことをするのもアリだと思います。

大事なのは、気分転換に時間を使ったことを後悔しないことです。

それぞれ色々な環境の下、勉強されていることと思います。

心身ともに健康に気をつけつつ、悔しさをバネに、勢いよく5→8を突破してってくださいっ



木村さん（仮名）の論文本試験での成績

Point：全科目について、理論で空欄は作らなかった。→部分点を積み上げた。

問題文の引用を駆使して、論点ズレ・余事記載を防いだ。→財理・監査で稼げた。

時間配分は「大問一つに1時間以内」を守った。→大問ごとに大きくは下振れしなかった。

会計学（第1問25.95＋第2問26.8＋第3問29.1＋第4問33.39＋第5問35.98）÷300点→**50.45**

会計学午前（管理会計）

第1問 素点20.5/50 偏差値 51.9 ×0.5→調整後得点 25.95/50

第2問 素点12.5/50 偏差値 53.6 ×0.5→調整後得点 26.8/50

会計学午後（財務会計）

第3問 素点31.5/60 偏差値 48.5×0.6→調整後得点 29.1/60…減損の計算で2ミス

第4問 素点23.5/70 偏差値 47.7×0.7→調整後得点 33.39/70…SO,ARO計算ミス,理論OK

第5問 素点 19/70 偏差値 51.4×0.7→調整後得点 35.98/70…計算は△, 理論OK

監査論 第1問32＋第2問31.25→**63.25**

第1問 素点20.5/50 偏差値64×0.5→調整後得点 32/50…問題集のpointをおさえていた

第2問 素点 25/50 偏差値62.5×0.5→調整後得点 31.25/50…問題文の読み取りに丁寧に
時間をかけた

企業法 第1問25.55＋第2問24.85→**50.4**

第1問 素点21/50 偏差値 51.1×0.5→調整後得点 25.55/50

第2問 素点19/50 偏差値 49.7×0.5→調整後得点 24.85/50…趣旨を書き忘れた箇所あり

租税法 第1問20.64＋第2問29.7→**50.35**

第1問 素点20/40 偏差値 51.6×0.4→20.64/40…6月以降,要約条文に答練を一元化

第2問 素点19/60 偏差値 49.5×0.6→29.7/60…消費税は一箇所のみ取った

経営学 第1問28.65＋29.3→**57.95**

第1問 素点31/50 偏差値 57.3×0.5→28.65/50…章末まとめを毎日確認していた

第2問 素点44/50 偏差値 58.6×0.5→29.3/50…直前期,章末問題・レベル1を毎週1周

(会計学**50.45**×3＋監査論**63.25**＋企業法**50.4**＋租税法**50.35**＋経営学**57.95**)÷700

=**総合53.43** > 合格基準値52 →合格 (1,000番台/合格者1,337人 論文受験者3,772人)

木村さん（仮名） 時期別の勉強記録

<1月～3月>

3月までの短答科目の論文答練（基礎・応用）、財務計算・管理の論文アクセスは、成績がばろばろでも受け続けました。

12月までの短答答練は、4月以降の直前期に備えて、財務理論・監査・企業・管理理論は章ごとにフアイリングしておきました。

租税・経営

復習ゼロでも、講義だけ最後まで（3月中）受け続けました。

租税はライブ、経営はWebです。

フルタイムで働いていたため、租税・経営の答練・アクセスは5月以降にしました。

財務理論・監査・企業共通

12月までテキストを全く見ずに他校の一問一答だけ回してしまっていたため、毎日テキストを丁寧に読みました。読んでいてわからないところにふせんを貼り、各科目質問へ持ち込みをしました。わたしの場合は、4月1日まで、短答問題集は特に触れていません。

財務理論

通勤中も毎日持ち歩きたかったため、やむをえずテキストを3分冊に製本して、毎日読みました。理論科目では一番時間を充てました。丁寧に読んでみるといっぱい発見がありました。土日などに論文答練を解いて解説ライブ講義に毎回参加することで、いろいろ思い違っていたこともわかりました。

監査

論文問題集の「Point」の流れをテキスト余白に反映して一元化し、毎日読んでいました。

また、財務理論の論文答練解説を参考に、監査論も答練の模範解答について分析をしました。**解答のうち、問題文からコピペして作られている部分を[]で囲む**という方法です。問いに答えるためにどうすればよいかだんだんわかってきたので、おすすめです。

企業法

テキストの太枠・細枠・論点を読んで、わからないところにふせんを貼りました。問題集の解答分析は少しずつ進めていきました。

<4・5月>

4月1日から**短答の知識暗記**を始めました。私の場合は論文全国模試はパスしました。

短答直前答練での成績は大体B判定ぐらいです。たまに名前が載ることもありましたが、ムラはありました。論文の勉強をやっていたことで、短答問題集をやっても12月までとは感触が違いました。

<5月短答後～論文本試験>

5月短答翌日からすぐに租税・経営のアウトプットに移りました。

租税はテキストを横に置いてアクセス・基礎答練・応用答練を解き始めました。租税で手いっぱいになり、ついつい経営を放置してしまいました。

6月頭からの**論文直前答練・論文アクセスは、租税・経営以外はすべてほぼ日程どおりに受けました**。6/20の合格発表では、ボーダーの3%上で合格で、その日から監査法人は試験前休暇期間に入りました。

7月頭の論文全国模試では、放置してしまった経営が足切りで、藤沢先生に怒られに行きました。**章末問題とレベルIを毎週1周（つまみ食いで）**して会いに行くことにしました。**章末まとめをファイナンス・理論共に切り取ってファイリングして、毎日確認**しました。

租税の理論は、理論テキストの要約条文にすべて一元化して、毎日確認していました。

8月直前期は毎日こんな感じで、2時間区切りで動いてました ↓

7～9時	近所のカフェで朝ごはんを食べながら、財務理論と昨日の
9～11時	復習
11～13時	TACへ移動して、管理会計
昼	租税
13時半～16時	おにぎり2個（本試験と同じ）
16時半～18時半	企業か監査どちらかをメインに取り組む（Oにはしない）
夜	近所の図書館に移動して財務計算
19時～21時	大戸屋でごはん
23時	家で経営など
	就寝

斎藤さん(仮名):短答3回目合格、論文5→8合格 大学卒業1年後合格

2017年12月×,5月×,2018年12月×(1%足りず)→2019年5月○,8月○

①12月後の勉強について

3回目に受けた12月短答の時点では、ボーダーまで1%足りない結果でした。12月以降、勉強の方針としては、あくまで**8月の論文が最終目標**で「まずは短答」というよりは「**5月の短答は通過点**」の意識で勉強してました。

なので、自分の場合、論文全国①までは周りの論文生と同じように、講義や答練を受けてました。4月後半の論文全国①までは短答特化の勉強はしておらず、**論文の勉強の中で短答だと覚えたそうがよさそうな所に注意する**、というような意識レベルで短答の勉強をしていました。それまで3回短答に落ちていたので、経験的に短答で必要な知識や理解の目星はつけやすかったです。短答特化に特化してからは、租税経営も短答が終わるまではストップしました。

振り返ってみると、**論文の勉強をしていたことが理解の深掘りに繋がっていて、短答の勉強にもシナジーがあった**ように思います。特に、財務理論と監査はそう感じました。

経営租税については、やはり講義や基礎答練を通常どおりに受けていたことで、短答が終わってからの勉強がスムーズに進んでよかったと思います。特に経営はその甲斐もあってか、本番の結果に繋がったと思います。

租税は消費税は時間が足りなくて全て切ってしまったので、本番はあまりよくなかったです。

②「5月8月」について

12月時点であと1%だったこともあり、私は5月8月という意識はあまり強く持っていませんでした。論文答練などでも、論文上級生や12月合格の方に比べて大きく劣っていると感じる事は少なかったです。論文科目である経営学も3月までである程度得意にできていたので、本番でも稼ぎ柱になりました。

5月8月という意識にあまりこだわりすぎると不安が大きくなると思いますので、**常に冷静に自分の成績や現状と向き合い、真摯に前に進んでいく事**が大切だと思います。

③メンタル管理について

論文式試験の3日間は手応えによってメンタルの調整が難しいですが、私は論文式試験の1日目の夜と2日目の夜に、当初から試験勉強の事を話していた友人達から励ましのLINEをもらったり少し電話したりして、メンタルを安定させる事ができました。

斎藤さん（仮名）の論文本試験での成績

会計学（第1問31.5＋第2問27＋第3問22.4＋第4問31＋第5問38）÷300点→**50.16**

会計学午前（管理会計）

第1問 偏差値 63 ×0.5→調整後得点 31.5/50

第2問 偏差値 54×0.5→調整後得点 27/50

会計学午後（財務会計）

第3問 偏差値 37×**0.6**→調整後得点 22.4/60

第4問 偏差値 44×**0.7**→調整後得点 31/70

第5問 偏差値 55×**0.7**→調整後得点 38.6/70

監査論 第1問33.1＋第2問24.6→**57.70**

第1問 偏差値66.2×0.5→調整後得点 33.1/50

第2問 偏差値49.2×0.5→調整後得点 24.6/50

企業法 第1問32.7＋第2問24.85→**57.55**

第1問 偏差値 65.4×0.5→調整後得点 32.7/50

第2問 偏差値 49.7×0.5→調整後得点 24.85/50

租税法 第1問18.55＋第2問31.8→**50.35**

第1問 偏差値 46.3×0.4→18.55/40

第2問 偏差値 53×0.6→31.8/60

経営学 第1問30.55＋29.3→**59.85**

第1問 偏差値 61.1×0.5→30.55/50

第2問 偏差値 58.6×0.5→29.3/50

(会計学**50.16**×3＋監査論**57.70**＋企業法**57.55**＋租税法**50.35**＋経営学**59.85**)÷700

=**総合53.70** >合格基準値52



合格（900番台/合格者1,337人 論文受験者3,772人）

【MEMO】